

新規事業企画のためのマニュアル

社団法人 日本栄養士会
全国地域活動栄養士協議会

発刊にあたって

全国地域活動栄養士協議会は、会の名称とともに会員の活動も大きく変化を遂げてきました。創始期の在宅栄養士の掘り起こし時代から、今や起業栄養士の時代へと変わりつつあります。

現状では、地域活動栄養士の特殊性から、その多くは会員個々の状況に即した業務形態がとられ、個人またはグループでその地域にあった活動が進められています。一方、市町村が企画する事業等には従来からの「お手伝い」的な仕事もまだまだ多く、会員自身もボランティア的な認識で仕事をしている人も少なくありません。しかし、私たちは「管理栄養士・栄養士」という資格を持った職業人(プロフェッショナル)の団体として、会員一人ひとりが専門業務に責任を持ち、仕事に見合った収入を得ることが会員の意識を変え、国民へのニーズ対応が適切に図れると考えます。どこかが企画してくれるのではなく、私たち自らがそれぞれの地域でのニーズを捉えて企画立案し、実施・評価へとつなげていかななくては真の住民サービスとはなりえません。そこで、常に現状認識の上に立って、行政機関や他関連機関等との連携などいろいろと模索し、活動の場を広げていく努力をする覚悟であります。

ついては、今回(社)日本栄養士会の掲げる重点課題と合わせ、誰もが容易に事業を企画できるよう、糖尿病予防および介護予防等に関する業務の企画マニュアルを作成いたしました。内容は、マニュアルが会員にとって身近なものとして活用されるよう、会員の活動の情報を基とし報告された事例等を各所に盛り込みました。したがって、一般論というよりは実践的な内容といたしました。専門書等の併用により、この「新規事業企画のためのマニュアル」が多くの会員・グループに活用され、各都道府県民のさらなる健康増進を目指した新たな事業が各地でスタートすることを祈念いたします。

平成 18 年 3 月

(社)日本栄養士会全国地域活動栄養士協議会
協議会長 野口 泰子

目 次

発行にあたって

(社)日本栄養士会全国地域活動栄養士協議会協議会長 野口 泰子

新規事業企画のためのマニュアル

・新規事業企画の目的	1
・新規事業企画の必要性とその背景	2
・新規事業の企画	3
1. 企画とは何か 2. 企画に必要な条件 3. 企画を実行するには	
・新規企画事業の進め方	5
1. 目的・目標・コンセプトを設定する 2. 事業の企画・立案は5W2Hで 3. 評価	
・糖尿病・高齢者低栄養予防対策事業等企画調査からの事例	14
・新規事業企画アシストシート	27

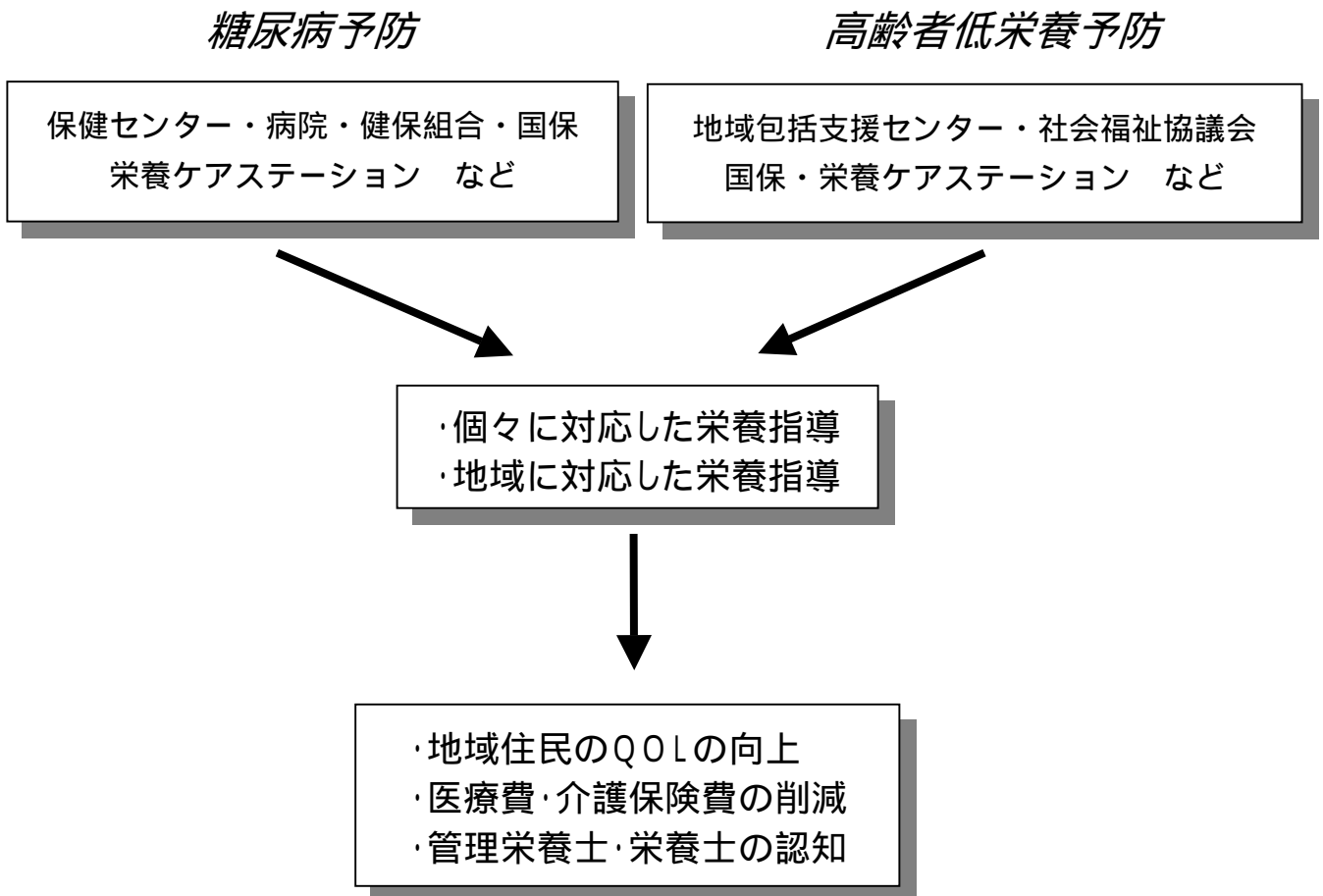
資 料

【資料 1】	・世界人口の推移 ・世界の糖尿病患者数と I G T の人数の推移 (20~79 歳)	31
【資料 2】	・糖尿病予備軍の推移 ・糖尿病が強く疑われる人の受診状況	32
【資料 3】	I G T に対する介入と糖尿病発症抑制効果	33
【資料 4】	・平成 14 年度国民医療費 ・糖尿病治療薬・特定保健用食品(糖尿病関係)の市場規模	34
【資料 5】	高齢者人口の年次比較	35
【資料 6】	・地域高齢者のエネルギー・タンパク質補給を用いたランダム化比較試験による エネルギー摂取量、体重、身体機能の改善報告率 ・わが国の高齢者医療施設入院患者等の低栄養状態の中リスク者の出現頻度	36
【資料 7】	問診表(例)生活習慣病予防用	37
【資料 8】	問診表(例)高齢者低栄養予防用	38
【資料 9】	低栄養状態予防のためのアセスメント自己チェック表(例)	39
【資料 10】	栄養指導標準報酬表	40
会員による地域での活動症例紹介		41
各種情報入手のためのアドレス一覧		45
【付 録】	「食事バランスガイド」 平成 14 年度全国地域活動栄養士協議会作成パンフレット 『栄養士のススめる朝食ダイエット「朝食しっかり食べる宣言!」』	

・新規事業企画の目的

(社)日本栄養士会では、健康日本21・健康フロンティア戦略の推進を受け、糖尿病予防、高齢者低栄養予防などに全力を注ぎ、以って住民の健康長寿の延伸に努めることを最重点課題とした。

これらの状況の中で、管理栄養士・栄養士である地域活動栄養士協議会会員は、糖尿病予防、高齢者低栄養予防に関する健康・栄養問題、および日頃の健康づくりのためにどのような食生活の改善が必要か、社会への対応が求められている。私たちはこれらの負託に応えるため、地域のニーズにあった事業を企画し、その結果を評価して新たな目標を生みだし、更なる地域住民の健康づくりに貢献することを目的とする。



・新規事業企画の必要性とその背景

健康日本21・健康フロンティア戦略の趣旨に基づき、国民の「健康寿命」を延ばすことを基本目標におき、「生活習慣病対策(主に糖尿病予防)の推進」と「介護予防の推進」の2つのアプローチにより活動を展開する。

〔 資料 は新規事業の必要性を伝える根拠として、
また、活動を展開する際の様式例として活用してほしい 〕

1. 糖尿病予防対策

- ・ 糖尿病が疑われる人の増加
- ・ 糖尿病の可能性が否定できない人(糖尿病の予備軍)の増加等
 - 【付 録】 食事バランスガイド
 - 【資料1】 世界人口の推移
世界の糖尿病患者数と IGT の人数の推移(20～79 歳)
 - 【資料2】 糖尿病予備軍の推移
糖尿病が強く疑われる人の受診状況
 - 【資料3】 IGTに対する介入と糖尿病発症抑制効果
 - 【資料4】 平成 14 年度国民医療費
糖尿病治療薬・特定保健用食品(糖尿病関係)の市場規模

2. 高齢者低栄養予防対策

- ・ ケアが必要な高齢者の3～4割が低栄養状態
 - 【資料5】 高齢者人口の年次比較
 - 【資料6】 地域高齢者へのエネルギー・タンパク質補給を用いたランダム化比較試験によるエネルギー摂取量、体重、身体機能の改善報告率
わが国の高齢者医療施設入院患者等の低栄養状態の中リスク者の出現頻度
参考資料 「栄養日本」2005年5月号 特集 熊谷修先生
『高齢者の栄養問題 介護予防における低栄養予防対策』

PEM (protein energy malnutrition) とは、たんぱく質・エネルギーが低栄養状態のことをいう。

PEM は、成人マラスム型、マラスム・クワシオルコル型、成人クワシオルコル型の3つに区分される。

〔 マラ ス ム ス:エネルギー源・たんぱく質欠乏状態、
クワシオルコル:エネルギー源は十分であるがたんぱく質不足の状態 〕

・新規事業の企画

1. 企画とは何か

「アイデア = 発想」を「かたち = 事業」にすること

企 画		
< アイデア > 思いつきを実現可能な アイデアに育てる	< 計画 > 内容を実践可能な シナリオに作成する	< 問題解決 > 対象を客観的に把握し 事業提案をする

2. 企画に必要な条件

- 1) 実態の把握 社会背景、対象を取り巻く環境等を考慮して問題点を分析する
- 2) 問題の発見と分析 実態等、情報をもとに対象の健康・栄養、問題を明らかにし、改善課題の取り組みに順位をつける情報をもとに対象の健康・栄養問題を明らかにする
- 3) 情報の収集 栄養士会関連情報誌(「栄養日本」など)
 公的機関発信情報(「国民衛生の動向」など)
 各種学会、インターネット、各種情報誌

問題点発見のための調査項目

身体状況	
・ 身長 ・体重 ・BMI ・体脂肪 ・腹囲 ・皮脂厚	
疾病に直接関連する項目	
・ 現病歴	(病名 検査値 治療法 薬物)
・ 既往歴	(過去に罹患した疾病)
・ 現状	(現在の健康自己評価 自覚症状)
・ 家族歴	(家族の罹患した疾病)
・ かかりつけの医療機関主治医所見	
生活状況	
・ 生活リズム	(食事の時間 食事内容 外食状況)
・ 仕事	(通勤手段 通勤時間 仕事内容 仕事量 就労時間)
・ 家族構成	(核家族 複合家族 単身赴任 独居)
・ 運動習慣	(運動量 運動の種類 強度 時間 頻度)
・ 睡眠	(時間 不眠の有無)
・ 嗜好	(喫煙 飲酒 嗜好品)
・ 意欲	(生活意欲 食欲)

【資料 7】 問診表(例)生活習慣病予防用

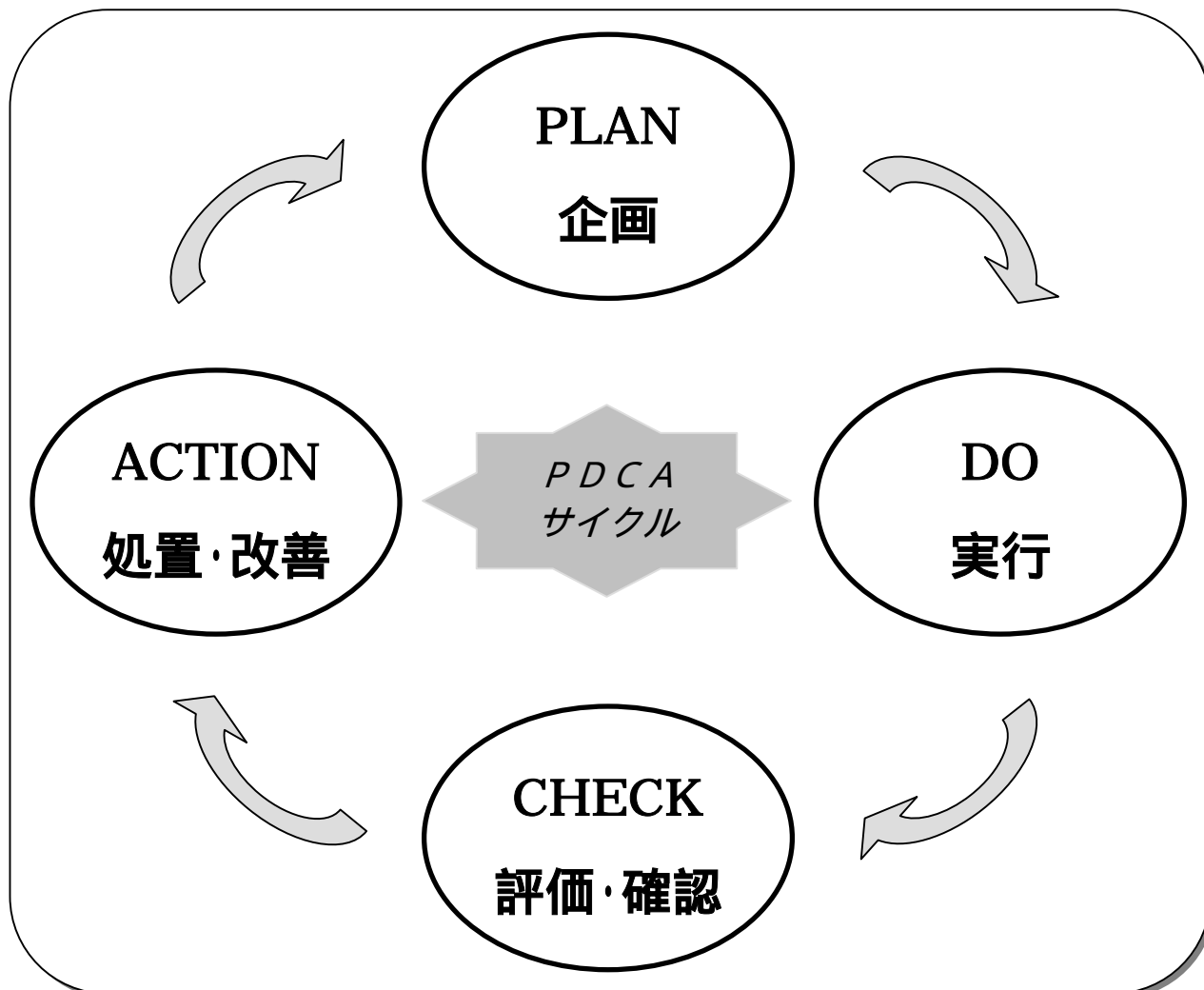
【資料 8】 問診表(例)高齢者低栄養予防用

【資料 9】 低栄養状態予防のためのアセスメント 自己チェック表(例)

3. 企画を実行するには

事業の目的を達成するためには、目標を明確にする。何をどのようにするか具体的な企画をたて、プレゼンテーションし実施する。結果は、わかりやすく解析、評価する。

効率よく仕事をするためのマネージメント・サイクル



(注) PLAN-DO-SEE も同様

評価の段階で新たな問題点や課題の確認をする。そして、何らかの処置・改善をし、次の企画に反映させて、それを実施評価し、成果を向上させるようなサイクルを考える。この4つ(PDCAサイクル)を同時に考えながら企画していくことが重要である。

・新規企画事業の進め方

1. 目的・目標・コンセプトを設定する

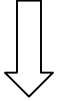
目的

この事業の到達点



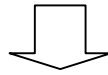
実態の把握

マーケティング 対象者や地域の実態を把握し、求めているもの(ニーズ)を探る
既存のサービスの問題点の発見、分析を行う



目標の設定

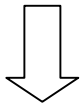
期間と達成度を段階的な指標で設定する
段階的な指標を着実に達成しているかを途中でチェックする
到達点の目的を達成できるように軌道修正しながら、当初の目標設定を実現化させる



2. 事業の企画・立案は5W2Hで

事業を企画

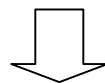
それぞれの事業活動は関係機関によって企画内容を考えて立案する



事業を実施

作成された企画に添って事業を実施

何のために Why だれと Who いつ When
どこで Where 何を What
どういう手段で How to いくらで How much



3. 評価

評価

企画面 運営面
対象者の期待の達成度 行動変容 データ変容 依頼者の満足度などから、目的の達成度を評価



事業企画

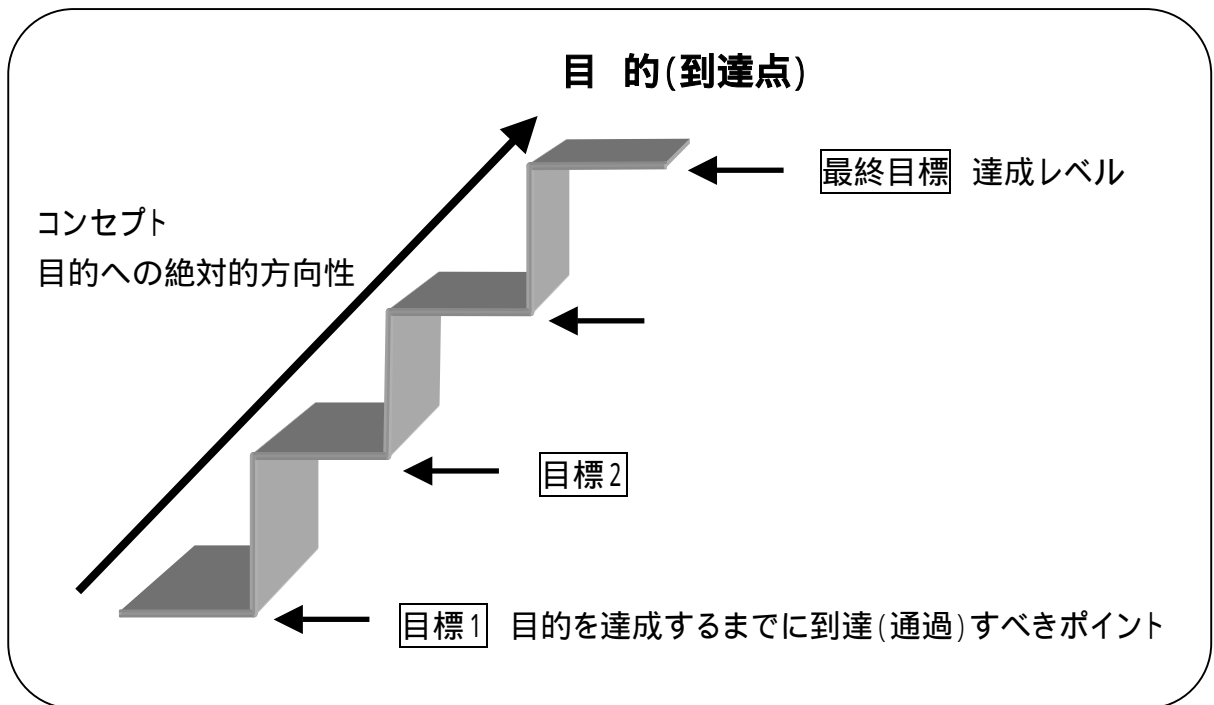


事業実施

事業の評価から、よかった点、改善すべき点を踏まえ、問題点の発見と分析を行い、次の事業企画を作成し、事業を実施する

1. 目的・目標・コンセプトを設定する

「何を、いつまでに、どのレベルまでに」



目標とは、目的に向って期間と達成度を設定した、具体的で段階的な指標である。目標をひとつずつ着実に達成していくことにより、最終ゴールである目的に近づいていることを確認でき、活動の効果を誰の目にも理解できる。

たとえば“糖尿病予防・高齢者低栄養予防”という目的を設定し、行動の指標となる具体的目標を示す。

目標の設定上の注意点

- ・ 対象者にも管理栄養士・栄養士以外の担当者にも理解できるものであること
- ・ 達成指標は数値で測定できるものにする
- ・ 一方的に働きかけや手段を示すのではなく、集団・個人の行動変容が示されること
- ・ 達成可能であること
(目標達成率%を数値化し、結果と比較して次の目標の資料とする)

2. 事業の企画・立案は5W2Hで

何のために Why

目的

糖 尿 病 予 防
<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病予防の行動変容を促す。スーパーマーケットにて食品・商品を見ながら実生活に役立つ情報を提供する ・ 外食が害食にならないように、今の生活に欠かせない外食店の知識向上と意識改革、意識はあっても時間と手間がなく方法を模索している店主への援助 ・ 「食」が健康を左右することは広く知られるが、具体的なことを、体験し学ぶ場はほとんどなく、食事療法をすすめるにあたっても十分なフォローができないのが現状。常に食の正しい情報と体験の場を提供し、「食」のひずみを是正することで生活習慣病予防につなげる ・ 糖尿病予防のため、肥満者に対して短時間でかつ確実に意識・行動変容に繋がる指導 ・ 企業の検診後のフォローにかかるコストや生活習慣病の予備軍への対策として1次予防の重要性を欠勤率や医務室へ来る頻度などを具体的に提示し、経営者に教室開催の有効性や参加を促す ・ 一般市民の健康への関心度を高め、糖尿病に対する基礎知識を普及して境界型から正常に戻すことで市民の健康を守り、さらに医療費の増大を防ぐ
高 齢 者 低 栄 養 予 防
<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者のQOLを高め「最後まで人間らしく生きる」手助け ・ 医療費・経費削減を目指す ・ 高齢者世帯や一人暮らしの高齢者の食生活の偏りや低栄養を予防する ・ 在宅療養者にとって、食事は日常の楽しみ。的確な栄養管理が施されたおいしい食事を提供することにより疾病・症状の悪化防止とQOLの向上を図ることができる。そこで、介護者を対象に栄養学的知識及び調理技術が習得できる講習会を実施する。講習会開催により、介護者の食管理能力の向上に貢献することを目的とする ・ 高齢者配事業者・ホームヘルパーに高齢者の栄養、病態についての知識を持ってもらい高齢者が安心して食事を取れるサービスを提供できる環境を整える ・ 県民の健康寿命を延ばすことを基本目標に、健康でいきいき生活するため、また引きこもりがちな高齢者の低栄養を見逃さないための活動を行う

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会 「会員が実施している事業に関する調査」より)

だれと Who

事業に関する団体や組織の意向と協力の必要性を検討し、依頼を考える。

関係機関・組織・団体と協力者

	関係機関・組織・団体名など	協力者
一般	・自治会 ・町内会 ・女性会 ・青年会 ・老人クラブ ・商工会 ・労働組合	・地域住民
保健衛生関係	・保健所 ・市町村保健センター ・健康科学センター ・母子保健センター ・健康増進施設 ・医療機関 ・医師会 ・歯科医師会 ・薬剤師会 ・看護協会 ・公衆衛生推進協議会 ・食品衛生協会	・医師 ・歯科医師 ・薬剤師 ・検査技師 ・保健師 ・研究員 ・看護師 ・歯科衛生士 ・食品衛生監視員
栄養関係	・栄養士会 ・調理師会 ・集団給食研究会 ・食生活改善推進協議会	・管理栄養士 ・栄養士 ・司厨士 ・調理師 ・食生活改善推進員
運動関係	・スポーツ施設 ・フィットネスクラブ ・健康運動指導士会 ・体育協会 ・各種スポーツ団体	・健康運動指導士 ・体育指導員
教育関係	・教育委員会 ・各種学校 ・公民館 ・PTA ・こども会 ・レクリエーション協会	・教諭 ・養護教諭 ・指導主事
民生・介護関係	・保育園 ・福祉事務所 ・福祉センター ・社会福祉協議会 ・シルバー人材センター	・保育士 ・社会福祉士 ・介護福祉士 ・作業療法士 ・理学療法士 ・言語療法士 ・ケアマネージャー ・ケースワーカー ・民生委員 ・介護職員 ・ホームヘルパー
農水産関係	・農林改良普及センター ・農林事務所 ・農水業協同組合	・生活改良普及員 ・農協生活指導員
消費生活関係	・消費生活センター ・消費者団体 ・生活協同組合	・消費生活相談員
その他	・企業 ・報道機関 ・非営利団体	・企業関係者 ・記者 ・ボランティア

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会 「会員が実施している事業に関する調査」より)

事業のアプローチ先・依頼先

アプローチ先・依頼先	
糖 尿 病 予 防	高 齢 者 低 栄 養 予 防
医師会	医師会
診療所	診療所
看護協会	看護協会
国保連合会	国保連合会
行政	行政
公民館	公民館
企業	サービス施設
スポーツジム	社会福祉協議会
スイミングスクール	老人クラブ
ホームヘルパー	地域包括支援センター
老人クラブ	訪問介護ステーション
米穀協会	在宅支援センター
メディア	ホームヘルパー
スーパーマーケット協会	メディア
産業推進センター	各団体 OB
商工会	振興財団
レストラン	レストラン
J A	J A

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会 「会員が実施している事業に関する調査」より)

いつ When

実施時間、期間、日時などを検討し、広報の時期や活動のスケジュールを立てる。

どこで Where

実施場所を検討する

会場

・ 地域公民館	・ 市町村保健センター	・ 健康増進センター
・ 市町村学習センター	・ 男女共同参画センター	・ 介護研修センター
・ シルバー人材センター	・ 勤労文化会館	・ スポーツセンター
・ 児童館	・ 医師会調理室	・ スタジオ
・ 日帰り温泉施設	・ レストラン	・ 割烹料理店
・ アーケード商店街店舗	・ 公園	・ その他

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会 「会員が実施している事業に関する調査」より)

何を What

設定した目標が目的を達成できる事業活動内容かを分析し検討する。

活動内容

糖 尿 病 予 防
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事と健康に関する基礎学習を行う場を提供、教える学習(知識の伝達)から自己啓発・気づきの学習(自分の健康は自分で守る)への実践指導を行い、食事コントロールをしやすいとする ・ 外食産業・大型店舗とタイアップし買い物客に健康意識を向上させ、食材の使い方などをアドバイスする ・ 糖尿病予防に役立つランチメニュー(例:和食中心・約 500kcal)が提供できる事に注目して、それに該当する飲食店をマップで広く知らせ、意識を持って利用してもらうようにする ・ 健診後に説明なしで報告書だけが返されるという現状で、食生活に不安を感じながらも、相談やアドバイスを受けたくても受けられないという人に、気軽に栄養士の相談が受けられる場を提供する ・ 参加者の人柄などがわかっていると指導方針が決まりやすい。そこで、少人数制のグループ指導で無駄な経費、時間を削減できるように、また心に響きやすい指導方法でおこなう ・ 自己管理ができるように、体の不調・不安の相談に対しフォローをおこなう
高 齢 者 低 栄 養 予 防
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活が単調になりがちな高齢者が一堂に会し、楽しく料理し、食事をするなどを通して、低栄養状態の予防・改善を図る ・ 介護にかかわるヘルパーさんの食に関する知識や調理技術は対象者の健康を大きく左右する。病態を含め、求められる知識と調理技術を学ぶ場を提供し、実践での低栄養予防にかかわる ・ 身体的、精神的健康づくりのため、家にひきこもりがちにならないように仲間づくりをすすめる ・ 指導には媒体等を使って楽しくわかりやすく3度の食事の大切さを伝える ・ 一人暮らし男性や妻の介護をするようになった人に、食べることや食事作りに関心を持ってもらいご飯と味噌汁くらいは作ってみようかという気持ちにする ・ 仲間と楽しみながら買い物をし(運動と情報を肌で感じる)、季節の食材を使って簡単、短時間に食事を作り、楽しく会食をする(仲間と食事をする楽しさを体験する)

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会「会員が実施している事業に関する調査」より)

どういう手段で How to

広報の手段、事業名、媒体、その活動に必要な時間、人数、機器、機材など考える。

広報・周知徹底方法

- ・ 全町に年間スケジュールを配布したり、各集会所・施設にも貼り出しをして周知
- ・ 開催前、一週間はさらに CATV などでも周知を徹底する
- ・ 保健センターが町内会単位で元気なお年寄りを対象に呼びかける
- ・ 回覧板や口こみ
- ・ 市週報、温泉への置きチラシ
- ・ 保健所の「健康応援団」に登録、宣伝効果の高い名刺作成
- ・ 案内チラシ作成、申し込み用紙を付ける。案内チラシをアプローチ先へ持参し、広報(配布、窓口やパンフレットラックに置く)を依頼する。知人に依頼(手渡し、郵送)したり、事業を実施する場所に置く
- ・ 市町村や公民館を通して住民に周知
- ・ 教室会員への個別配布
- ・ 医院の待合室に掲示
- ・ 民生委員の協力で対象者を訪問し、事業開催の声かけをする
- ・ 地元新聞やシニア向け地域広報誌(フリーペーパー)・ミニコミ誌に掲載
- ・ 学校・各種団体の総会や連絡協議会例会(園長会・校長会など)の機会を捉えて広報

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会「会員が実施している事業に関する調査」より)

事業名

糖 尿 病 予 防	高 齢 者 低 栄 養 予 防
料理サークル「おちゃめ会」	台所り八ビりで元気！元気！
女性のための食べる健康ダイエット	生き生き元気塾
さわやかみどり親睦会	がんばたれ教室
血糖ダウン教室～血糖値の気になる方へ～	ころばぬ先の知恵講座
美しさと健康を同時に手にする料理教室	お料理しま専科アラカルト講座
実践！糖尿病の食事	おたっしや料理教室
今日のおかずはなあに？	元気シルバーライフ教室
適正体重で健康実感！	栄養出前講座
ころばぬ先の杖	シルバーヘルスアップ
あなたにあったオーダーメイドの健康づくり	おいしく食べていきいき長生き！
食生活応援団	食は健康の源！楽しく作っておいしく食べよう
ヘルシー＆ダイエット	楽しく！美味しく！料理教室
食べることで身も心も健康に	手軽に楽しくご長寿料理
食の楽しさ発見	ことぶき健脚教室

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会「会員が実施している事業に関する調査」より)

媒体の種類

媒体種類	媒体名	対 象			
		一般大衆	大グループ	小グループ	個人
掲示・展示	パネル・ポスター 写真 フランチネル 図表・壁新聞 食品模型・実物食品				
印刷物	パンフレット・リーフレット・刊行物 「食品交換表」				
映像	スライド・パワーポイント 映画 テレビ・ビデオ・DVD				
演示	実演 紙芝居 人形劇・ペープサートなど				
その他	ホワイトボードなど				

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会「会員が実施している事業に関する調査」より)

いくらで How much

必要経費項目

報酬費	助手謝金	資料作成費
レシピ作成費	栄養情報提供料	特別病態情報提供料
広報費	会場費(試作日・当日)	交通費
郵送費	事務経費	什器備品
雑費消耗品費	食材費(試作日・当日)	パソコン維持管理費
行事保険	その他	

(平成 17 年度全国地域活動栄養士協議会「会員が実施している事業に関する調査」より)

【資料10】 栄養指導標準報酬表

3. 評価

評価の方法

評価を行う場合、目標の達成度や実態の改善度は事業をする前、事業の途中や事業後の時間的な推移から、実数や比率の評価を行い、指導を行わなかった集団を設定したときは、これと比較することが大切である。

事業の各段階で一区切りごとに必要な評価をおこなう。さらに、一つの目的に対する事業が終了した時点で全体的に評価する。そのためには評価が容易にできるように絶えず記録をとっておくことが必要である。

1. 生化学的データ(血液検査・体重・BMI・体脂肪・腹囲・皮下脂厚など)の比較による評価
2. 行動変容的なものの比較による評価
3. アンケートの比較による評価

評価方法の一例

対象者に対する評価	事業企画の評価		依頼者の評価
目的の達成度 対象者の達成度 行動変容 データ変容	運営面	スタッフや実施体制 機器 機材 経費(収支) 全体のスケジュール 実際の進行 コミュニケーション	対象者より スタッフより 事業依頼先より
	企画面	対象者 事業の方法と内容 実施場所 時間 日時 広報	

参考文献

- ・Helm Kathy King: 翻訳編集 (社)日本栄養士会全国地域活動栄養士協議会
翻訳 橋本 玲子: 開業栄養士のビジネス戦略: 建帛社: 1997
- ・中村芳樹: 思考技術としての企画力: 海文堂: 1994
- ・置増 哲: ウェルネス公衆栄養第 5 版: 医歯薬出版: 2004
- ・足立香代子: 検査値に基づいた栄養指導: チーム医療: 1999
- ・馬場 茂明: 糖尿病の食事指導マニュアル: 医歯薬出版: 1999
- ・在宅チーム医療栄養管理研究会: 編著 蓮村幸兌・佐藤悦子・塚田邦夫: 在宅高齢者食事ケアガイド: 第一出版: 2004

V. 糖尿病・高齢者低栄養予防対策事業等企画調査からの事例

糖尿病予防事業	自主事業実施例(1)・(2)
	依頼事業実施例(1)
高齢者低栄養予防事業	自主事業実施例(1)・(2)
	依頼事業実施例(1)
糖尿病予防事業	企画事業実施例(1)・(2)・(3)
高齢者低栄養予防事業	企画事業実施例(1)・(2)・(3)

「自主事業」・・・栄養士が企画した事業を市町村、事業所などにプレゼンテーションし、助成金などをもらって実施した事業。

「依頼事業」・・・市町村、事業所などの企画で栄養に関する部分を、賃金をもらって実施した事業。

「企画事業」・・・現在企画中、または今後やってみたい事業。

(2005年 8 月調査実施)

糖尿病予防事業実施企画 自主事業実施例(1)

島根県 戸谷潤子

実施事業名	お料理しま専科アラカルト講座(料理教室+健康教室)		
事業開始までの経緯	食事の改善が必要な人は多いが、そのための知識を学ぶ場は少なく、さらに好ましい食事内容や調理方法を体験する場はほとんどない。疾病予防や心豊かな生活を送るためにはこのような場は不可欠と考えて、身体によく、美味しく、バランスの取れた料理と対象目的別に必要な健康と栄養、食材の情報を学ぶ場の設定を企画提案した。		
事業実施の目的	「食」が健康を左右することは広く知られるが、具体的なことを体験し、さらに学ぶ場はほとんどなく、食事療法をすすめるにあたっても充分なフォローができないのが現状。常に食の正しい情報と体験の場があり、出かけることで自然に食を深めていくことができれば、「食」のひずみが発症にかかわる生活習慣病予防にもつながる。		
アプローチ先	雇用先: 役場保健福祉課		
集客周知方法	企画を健康福祉課に持ち込み(アウトソーシング)講座実施を請け負う形でスタートしたので、集客には保健師も絡み、全町に年間スケジュールを配布したり、各集会所・施設にも貼り出しをして周知した。また、月 2 回の講座の開催前 7 日間は CATV でもお知らせをした。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業形態(<input checked="" type="checkbox"/> 講話 <input type="checkbox"/> 相談 <input checked="" type="checkbox"/> 調理実習 <input type="checkbox"/> その他[]) ・対象者(<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他[]) ・事業開始年 (平成 17 年) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 単発事業 ・年 24 回の実施(糖尿病予防としてはそのうち 12 回) ・1 回の実施時間(約 3.5~4 時間) ・会場 (町保健センター調理実習室とホール) ・1 回の参加人数 (最大募集人数 16 名。参加者平均 10~12 名) ・担当栄養士の人数(管理栄養士 1 人) ・その他スタッフは(保健師が不定期で受講者として参加) 		
事業内容	タイムスケジュール		経費
	時間	内容	収入内訳 金額(円)
	7:30~9:30	当日用の実習下準備 (前日に必要なことがあれば前日も)	依頼先から 1 回につき 60,000+材料費
	9:30~	受付	合計 60,000+材料費
	10:00~11:00	レシピ・食情報・添付資料・アンケート 配布	支出内訳 金額(円)
		本日の食情報 (対象者と目的別に細かく内容を変える)	レシピ情報作成費 15,000
		実習説明とグループ分け	当日講師料 15,000
		移動・身支度	事前準備と事後処理 30,000
	11:10~12:30	調理実習と試食の準備	参加費 1人500×参加人数
	12:30~13:15	試食と会食しながらの話し合い	合計 60,000+材料費
	13:15~13:45 (14:00)	質問・本日のポイント・アンケート記入 片付け 次回の予約を含めて講座の PR	
報酬の根拠、算出基準	目的別レシピ+健康と食の情報資料代と講師料(当日指導料+準備と事後報告書作成などの時間も加えて)		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法 (<input type="checkbox"/> 比較検討[生化学的なもの] <input type="checkbox"/> 比較検討[行動変容的なもの] <input checked="" type="checkbox"/> アンケート ・その他(試食をしながら感想を聞く。次回講座への参加予約やリピート率) 		
参加者への事業後のフォロー	次回講座へのアプローチ、出席者への食事相談		
今後の展開と課題	アウトソーシングの 1 例と考えている。受け手に立つのではなく企画を、相手が望むであろうと思うもの、使えるものを現場から発信したので、H17 年度は受け入れられた。H18 年はどうなるか分からないが、リピート率は高い。食情報+実習+交流(特にこの部分はよい)の一方からの年間 1 回程度の健康教室ではできない内容のものであることを知ってもらうことが、次の展開(開催)につながるかと考える。内容を振り返り、さらに工夫を加えた企画を作ることも必要なことで、これからの課題でもある。		
その他意見	アウトソーシングの発想は、現行政の人には少ない。どうしても自分ができる部分に力が入り、弱い部分は手を出さず、また、企画もしないのが現状。地栄協で広くいろいろの仕事に携わって、相手のことがよく分かっている方が多いと思う。“こんなのどう?”とカンファレンスなどで提案をし、具体的なものを示すことから、受け入れがある場合も発生すると思う。栄養ケアステーション=栄養相談的な(指導)事から、栄養士だからできる部分の売り物にすることも大切であり、加えて、報酬も栄養士業務を安売りせず「これだけはいはる!」も必要で重要なことだと思う。活動の広がりや業務 PR としては多少安くても PR(広告)と割り切っている場合もあるほうがよい。		

糖尿病予防事業実施企画 自主事業実施例(2)

茨城県 高 文 江

実施事業名	事業所における健康診断結果後のフォローアップ対策			
事業開始までの経緯	健康日本21を軸に、健康増進法・健康フロンティア戦略を踏まえ、健康を無意味なものにしないためにも、第1次予防の観点から、要指導の対象者に対し健康管理のための援助を行うこととした。			
事業実施の目的	健康フロンティア戦略に基づき、健康診断後におけるフォローアップ対策として実施			
アプローチ先	健診センター経由自動車部品製造会社			
集客周知方法	健康診断結果「要指導」者対象にリストアップしたものを、事業所の健康管理担当者が、日程調整し集団・個人支援に当たる			
事業概要	<p>・事業形態(<input checked="" type="checkbox"/> 講話 <input type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> 調理実習 <input checked="" type="checkbox"/> その他[])</p> <p>・対象者(<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他[])</p> <p>・対象者(<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他[])</p> <p>・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 単発事業</p> <p>・年 5 回の実施 (1回あたり1人30分 集団1時間)</p> <p>・1回の実施時間(約 4 時間)</p> <p>・会場 (事業所会議室)</p> <p>・1回の参加人数 (約 50~70 人)</p> <p>・担当栄養士の人数(管理栄養士 1 人 ; 栄養士 2 人)</p> <p>・その他スタッフは(医師 1 人 ; 保健師 人 ; 看護師 1 人 ; [] 人 ; [] 人)</p>			
事業内容	タイムスケジュール		経費	
	時間	内容	収入内訳 金額(円)	
13:00~15:00 個別の場合	13:00~15:00 個別の場合	血糖測定	合計	15,000~30,000
		コメント		
		生活、食事聞き取り	支出内訳	金額(円)
		血糖測定		
		使用資料: 栄養士担当	報酬費	
		1. 耐糖能異常の個別健康教育	交通費	
		2. 耐糖能異常指導のための拡大図版	会場費	
		使用資料: 対象者	郵送費	
		1. 糖尿病ノート	事務経費	
		2. 糖尿病クイズ	雑費	
17:00~18:30 集団の場合	17:00~18:30 集団の場合	講話	合計	15,000~30,000
準備日程	<p>・対象者の食事記録チェック コメント</p> <p>・血糖値の推移グラフ作成</p> <p>・個々に適した参考資料の作成</p> <p>・集団の場合、パワーポイントの作成</p>			
報酬の根拠、算出基準	日栄の報酬表を提示し、雇用先の担当者との話し合いによる			
評価	<p>・評価方法 (<input checked="" type="checkbox"/> 比較検証生化学的なもの <input type="checkbox"/> 比較検討[行動変容的なもの] <input checked="" type="checkbox"/> アンケート)</p> <p>・事業企画に対する評価(<input type="checkbox"/> 企画どおり <input checked="" type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> その他)</p> <p>スタッフの評価(<input checked="" type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他)</p>			
参加者への事業後のフォロー	・次回の健診結果データによる改善と本人の気づきを重視した継続可能なメニュー支援			
今後の展開と課題	<p>・試食、調理実習の導入</p> <p>・軽い運動の導入</p>			
その他意見	<p>・個人に合った継続可能な支援の重要性を強く感じる。</p> <p>特に交替勤務者の労働状況は過重労働で、肉体的、精神的にも困難な現状である。精神的な配慮をした栄養指導が必要だと強く感じている。</p>			

糖尿病事業実施企画

依頼事業実施例(1)

徳島県 長尾 紀子

実施事業名	レストランのコンサルタント		
事業開始までの経緯	健康応援団としてのヘルシーメニューの提供の援助		
事業実施の目的	1:外食が害食にならないため(栄養指導の際感じる事) 2:今の生活に欠かせない外食店の知識向上と意識改革 3:意識はあっても時間と手間がなく方法を模索している店主への援助		
依頼先	スローフードレストラン		
集客周知方法	1:保健所の「健康応援団」に登録 2:宣伝効果の高い名刺作成		
事業概要	・事業形態(<input checked="" type="checkbox"/> 講話 <input checked="" type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> 調理実習 <input type="checkbox"/> その他[]) ・対象者(<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 集団 <input checked="" type="checkbox"/> その他[企業]) ・事業開始年 (平成 17 年 6 月) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 単発事業 ・年 回の実施 * 当初は月2回の予定だったが保健所の立会いにもできる限り参加した。 ・1回の実施時間(約 1時間) * 栄養計算他レストランでできない事は自宅にて行った。 ・会場 (レストラン) ・1回の参加人数 (約 1~2 人) ・担当栄養士の人数(管理栄養士 1 人) ・その他スタッフは(医師 人 ; 保健師 人 ; 看護師 人 ; [] 人 ; [] 人)		
事業内容	タイムスケジュール		経費
	時間	内容	収入内訳 金額(円)
	主に午後	* 登録メニューの内容聞き取り分析 * 分煙等に関しては pop 作成 * menubook の掲載内容について討議 * 地産地消について * 食育について * 保健所への連絡 * 生活習慣病の実際について * 家族(店主の)の健康診断の分析	合計 支出内訳 報酬費 交通費 会場費 郵送費 事務経費 雑費 合計
準備日程	* 事前訪問でメニューの内容、行事等について確認、検討 * 電話、fax にてメニューの内容、行事等について確認、検討 * インターネット、食べ歩き等により外食の勉強(参考になる店の研究) * 学会等に参加し使用できるサンプル等の提供準備(例:塩 0.3g、0.5g等の袋いり、低甘味料、添加物) (目的:減塩指導等のため)		
報酬の根拠、算出基準	・日本栄養士会の栄養指導標準報酬表を活用していますか。(<input checked="" type="checkbox"/> 活用している <input type="checkbox"/> 活用していない) 交通費、栄養相談を含めて最低ラインでスタートした。店主自身の栄養基礎知識向上のための指導(栄養価計算)を含む。		
評価	・評価方法 (<input type="checkbox"/> 比較検討[生化学的なもの] <input checked="" type="checkbox"/> 比較検討[行動変容的なもの] <input type="checkbox"/> アンケート その他(* 店主5ヶ月で8kg減量成果あり) ・事業企画に対する評価もよく、県のモデル事業に取り上げられている。		
参加者への事業後のフォロー	* 季節の行事等のプラン作成に参加、手伝い、治療食の紹介等2週間に1回の訪問指導予定 * 電話、ファクス、郵便等で必要時に連絡(パソコンが使用できないため不便であるがそのフォローのためにも自分の存在があると思っている)		
今後の展開と課題	栄養計算を含めケアステーションと栄養士会の報酬基準が違うので自分をどれだけ評価してもらえるか内容を濃くして再交渉予定		
その他意見	いつも心がけている事は 1:自分も経営を担っているという気持ちを忘れない事 2:これがお客様(患者様)の健康という利益につながると信じて店主をコーチングする事		

高齢者低栄養予防事業実施企画 自主事業実施例(1)

大阪府 ケアプランニング NEST

実施事業名	介護食をおいしく！－身近な食材を使って－			
事業開始までの経緯	在宅訪問栄養指導経験により、在宅での食内容は介護者(家族、ヘルパー)の介護力に大きく依存することを再認識し、その食管理技術の向上の必要性を痛感してきた。又、介護保険の委託療養管理のうち栄養指導の利用率はきわめて低い。在宅療養者の栄養管理は、栄養士が当たるのではなく、介護職・ヘルパーに委ねられ、その不適切な栄養管理からQOLの低下、低栄養の傾向、疾病の進展、介護者の過度の負担像などが散見された。			
事業実施の目的	在宅療養者にとって、食事は日常の楽しみである。的確な栄養管理が施されたおいしい食事を提供することにより疾病・症状の進展防止とQOLの向上を図ることができる。そこで、介護者を対象に栄養学的知識及び調理技術が習得でき、介護者の食管理能力の向上に貢献できることを目的とする。			
アプローチ先	(財)フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団 (助成金申請先)			
集客周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ・案内チラシ作成 ・広報:案内チラシ(申し込み用紙を付ける)の配布、会場窓口やパンフレットラックに置く ・在宅サービスセンター・社会福祉協議会・ホームヘルプ協会・ヘルパー養成学校・ヘルパー派遣事業所・事業実施施設・材料購入店(ポスター掲示)・在宅訪問事業従事者、知人に手渡し、郵送で依頼 			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業形態(<input checked="" type="checkbox"/> 講話 <input checked="" type="checkbox"/> 相談 <input checked="" type="checkbox"/> 調理実習 <input type="checkbox"/> その他[]) ・対象者(<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 集団 <input checked="" type="checkbox"/> その他[]) ・事業開始年 (平成 15 年) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 単発事業 ・年 1 回の実施 (6 回シリーズで企画) ・1回の実施時間(約 4 時間) ・会場 (公共施設ほか) ・1回の参加人数 (約 28 人) ・担当栄養士の人数(管理栄養士 2 人 ; 栄養士 2 人) ・その他スタッフは(医師 人 ; 保健師 人 ; 看護師 人 ; [] 人 ; [] 人) 			
事業内容	タイムスケジュール		経費	
	時間	内容	収入内訳	金額(円)
	9:25	入館 会場の入り口にチラシを提示	自己資金	42,118
	9:30	食材納入、受け取り	事業助成金	100,000
		準備 材料分け 下準備	参加費	27,000
		進行表を提示	合計	169,118
	10:00	受付開始:資料 名札 アンケート	支出内訳	金額(円)
	10:30	開始	報酬費	50,000
		挨拶 事業趣旨説明 プログラム説明	助手謝金	40,000
		栄養講話 調理説明	会場費(試作日・当日)	11,240
	11:40	調理開始	交通費	9,440
	13:15	試食・質疑応答・片付け	資料作成費	4,991
		総括 アンケート記入	郵送費	2,940
	14:30	終了	広報費	3,570
			事務経費	2,698
			什器備品費	5,250
			雑費、消耗品費	960
			行事保険	1,515
			食料費(試作日)	6,760
			食料費(当日)	29,754
			合計	169,118
準備日程	12月1日	会場申し込み	3月初旬	試作 撮影
		企画書 スケジュール	3月10日	申し込み締め切り
		案内チラシ作成 当日のスタッフ依頼		参加者名簿作成 資料印刷
	1月上旬	案内チラシ印刷	3月中旬	スタッフ打ち合わせ
		広報開始 案内チラシ配布	3月15日	食材発注
	1月中旬～下旬	レシピ 資料 アンケート作成	3月20日	保険 名簿提出
		行事保険手続き	3月23日	事業実施
2月	備品購入			
報酬の根拠、算出基準	・ 日本栄養士会栄養指導基準報酬表を活用			
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法 (<input type="checkbox"/> 比較検討[生化学的なもの] <input type="checkbox"/> 比較検討[行動変容的なもの] <input checked="" type="checkbox"/> アンケート ・ヘルパー資格取得講習での「食」内容では十分でないことに気づく ・嚥下食の調理方法の誤りに気づき、理解できた・身近な食材で工夫ができる・季節を感じる大切さを知るなど 			
参加者への事業後のフォロー	電話、FAX での質問があれば答えている			
今後の展開と課題	<p>第1回 介護食をおいしく！－身近な食材を使って－ 第2回 介護食に電子レンジを活用－調理をスピードアップ－ 第3回 家族食から介護食へ 第4回 疾病別介護食を学ぼう(I)塩分制限 第5回 疾病別介護食を学ぼう(II)糖質制限 第6回 疾病別介護食を学ぼう(III)脂質制限 を企画した。第1回目は事業助成金を申請した。受付人数は施設調理室の収容人数の28人としたところ、定員を超える申し込み数があり、当事業の必要性を感じる。参加者はヘルパー、介護家族、ケアマネージャー、栄養士、医師、歯科衛生士とさまざまであった。参加しやすい曜日、時間帯、参加費、実施回数の検討が必要と思われる。今後 他職種との事業の企画も考えたい。</p>			

高齢者低栄養予防事業実施企画 自主事業実施例（２）

岩手県地域活動栄養士協議会

実施事業名	高齢者にやさしい食生活支援事業「ヘルシーメニュー試食会」		
事業開始までの経緯	(財)長寿社会振興財団の助成事業で平成14年～16年の3年間、食事に関する講話とヘルシーメニューの試食会を県内5箇所で開催		
事業実施の目的	健康寿命の延伸を目標とした「健康いわて21プラン」が策定され、すべての県民に「自分の健康は自分で守る」という意識の中で、適切な栄養摂取と生活習慣病予防の知識を得てもらい、寝たきり予防などの健康生活の実践に役立てることをも目的とする。		
アプローチ先	(財)長寿社会振興財団		
集客周知方法	・開催予定周辺の老人クラブに依頼し、集客 ・地域によっては地元新聞やシニア向けの地域情報誌(フリーペーパー)に掲載し集客		
事業概要	・事業形態(<input checked="" type="checkbox"/> 講話 <input type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> 調理実習 <input checked="" type="checkbox"/> その他[試食] ・対象者(<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他[] ・事業開始年 (平成 14 年) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 単発事業 ・年 1～2 回の実施 (1回あたり2.5時間) ・1回の実施時間(約 4 時間) ・会場 (公民館、お店) ・1回の参加人数 (約 50～70 人) ・担当栄養士の人数(管理栄養士 5 人 ; 栄養士 3 人) ・その他スタッフは(医師 人 ; 保健師 人 ; 看護師 人 ; [] 人 ; [] 人)		
事業内容	タイムスケジュール		経費
	時間	内容	収入内訳 金額(円)
	10:00	開会 挨拶:栄養士会会長	助成金 831,000
	10:45	講演:「高齢者にやさしい食生活」 講師:栄養士会理事	
	12:00	ヘルシーメニューの試食 使用媒体 メニュー集:地元食材を使ったレシピ 野菜たっぷり、カルシウム たっぷりなどのレシピから	
	13:00	試食:県調理師会講師が調理 ヘルシーメニューの説明:調理師会講師	支出内訳 金額(円)
	14:00	閉会・アンケート回収	報酬費 270,000
		媒体 資料:「いつまでも元気でいるために」 健康いわて21プランに基づく高 齢者のための栄養情報活用テキ スト会で作成した冊子(35ペー ジ)を使用	交通費 170,000
			会場費 15,000
			材料費 210,000
			事務経費 100,000
			雑費 16,000
			合計 831,000
準備日程	25ヶ月前	会議:開催場所、講師の決定、スタッフ	
	2ヶ月前	依頼文書送付、チラシ等作成	
	1ヶ月前	参加者受付開始	
	1週間前	参加者受付締め切り	
報酬の根拠、算出基準	・当会基準による		
評価	・評価方法 (<input type="checkbox"/> 比較検討(生化学的なもの) <input type="checkbox"/> 比較検討[行動変容的なもの] <input checked="" type="checkbox"/> アンケート ・事業企画に対する評価(<input checked="" type="checkbox"/> 企画どおり <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> その他) スタッフの評価(<input checked="" type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他)		
参加者への事業後のフォロー	特にはしていないが、試食会の最後には、栄養士会主催のイベントの案内・10月の栄養月間の周知や栄養士会事務所の連絡先の案内、どこに行けば栄養士に会えるのかなどのPRはおこなった。		
今後の展開と課題	平成17年から3年計画で低栄養予防のための出前講座を実施する。 平成17年は、県内5支部で2回ずつの実施を予定。 介護予防(低栄養予防)及び筋力維持、生活習慣病予防をテーマに、講話と試食と実技を主な内容とする。 体重計測やアンケートを実施し、対象者の意識などを把握する。 課題としては、この結果をどのように今後にかかしていくか。また、低栄養の心配のある高齢者へどのようにして的確にアプローチするか、方法を見出すこと。		

高齢者低栄養予防事業実施企画 依頼事業実施例(1)

神奈川県 秋山 治子

実施事業名	おいしく食べて健康に 高齢者と介護食			
事業開始までの経緯	地域医療・介護を進めている医師から介護予防講座を企画してほしいとの依頼があった。1クールを4回とし、1回に講話、実習等を入れ、内容は一任するとの依頼であった。これから薦められる地域包括支援センターを中心とした事業において、市町村主体事業ではなく、地域活動栄養士が関わる栄養改善活動の始まりである。介護予防を目的とした集団的な栄養教育及び、低栄養状態者の地域支援活動に、医師を中心としたチームで取り組むことにした。			
事業実施の目的	高齢社会の進む中で介護保険法が見直され介護予防の中の栄養改善に力が注がれるようになった。地域支援事業において栄養士がかかわる栄養改善活動として、介護予防を目的とした集団的な栄養教育・低栄養状態者の支援活動、医療と関連した中での継続した高齢者の食生活改善活動を続けていきたい。			
アプローチ先	居宅介護支援事業所・開業医			
集客周知方法	①内科医院の待合室に掲示 ②居宅介護支援事業所からの声かけ			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業形態(<input checked="" type="checkbox"/> 講話 <input checked="" type="checkbox"/> 相談 <input checked="" type="checkbox"/> 調理実習 <input checked="" type="checkbox"/> その他[市販食品の試食]) ・対象者(<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他[]) ・事業開始年 (平成 17 年) ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 単発事業 ・年 連続4 回の実施 (1回あたり4時間 準備他に1時間) ・1回の実施時間(約 4 時間) ・会場 (地域ケア・プラザ)のち医院に集会室が用意される ・1回の参加人数 (約 16人まで:ケアプラザ 8人まで:医院) ・担当栄養士の人数(管理栄養士 2 人)以下削除 ・その他スタッフは(医師 1人 ; 保健師 1人 ; 看護師 人 ; [事務] 1人 ; [] 人) 			
事業内容	タイムスケジュール		経費(収支は医院で)	
	時間	内容	収入内訳	
	9:00~10:00	受付・テーブル、調理室の準備	出席者会費	1人500×参加人数
	10:00~10:30	管理栄養士講話		
	10:30~10:50	調理の説明とデモンストレーション		
	10:50~12:00	実習	支出内訳	金額(円)
	12:00~12:40	試食・片付け	報酬費	給与の形態で
	12:40~13:00	質問・話し合い	交通費	
	13:00~13:30	医師の講話	会場費	医院
		準備 食材料、レジメ、資料、献立、レシピ、パンフレット	郵送費	なし
		事務経費	医院	
		雑費	医院	
		合計	10,000+材料費他	
準備日程	約1日	レジメ、資料作成(医師に送付) パンフレット等 献立作成		
	約1日	2人分調理メニュー、実習用メニュー作成、栄養価計算 他の管理栄養士と打ち合わせ		
	2~3時間	材料の注文、買い物		
報酬の根拠、算出基準	給与の形態で(時間給)			
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法 (<input type="checkbox"/> 比較検討(生化学的なもの) <input type="checkbox"/> 比較検討[行動変容的なもの] <input checked="" type="checkbox"/> アンケート) ・事業企画に対する評価(<input type="checkbox"/> 企画どおり <input checked="" type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> その他) ・スタッフの評価(<input checked="" type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> その他) 医師・保健師が20~30分講話をしてくれるため評価は高くなる 			
参加者への事業後のフォロー	現在継続中			
今後の展開と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の関係で大勢が調理場に入ることが不可能のため人数に制約がある。 ・同じ対象者に4回の流れでプログラムを組んでみたが人数に制限があるため同じ出席者でない場合、前回の内容が伝わりにくい (体調や介護もあるため) ・1回ごとに大きなテーマを作るが、形態や食品の扱いなど応用を含めた単回の方法も考慮すべきと思う 医院の方では今回のクールで終了せず継続の方向で事業がすすめられている 地域支援事業の一環として食事作りの大切さ、低栄養の問題等、介護予防の取り組みに役立てるよう継続していきたい。以下削除 			
その他意見	私自身が携っている地域の料理講座が(6箇所ほど)10~20年継続されている。「孫が成人になった」という受講者の声から、地域支援事業の一環として食事作りの大切さ、低栄養の問題等 介護予防の取り組みに役立てるよう継続していきたいと考えている。			

糖尿病予防事業実施企画 企画事業実施例(1)

神奈川県 安達 美佐

実施事業名	スーパーマーケットツアー																									
事業実施の目的	スーパーマーケットにて、参加者が実際に食品や商品などを見ながら、糖尿病予防に役立つ知識や情報を得ることで、実生活に結びついた糖尿病予防のための行動変容を促すことを目的とする																									
アプローチ先	対象者は糖尿病予防に興味のある地域住民、耐糖能異常を指摘された地域住民 スーパーマーケット協会 スーパーマーケット各店、行政、ファイブ・ア・デイ協会																									
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者 (<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他(グループ) ・予定参加人数 (5 ~7 人くらい) ・実施予定回数と1回の実施時間 (月に2~4 回 くらい 50~60 分くらい) ・スタッフ(管理栄養士または栄養士 1 人 栄養士 人 医師 1 人 保健師 人) 																									
事業内容	タイムスケジュール		経費(予算案)																							
	時間	内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>収入内訳</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加費</td> <td>1 回 1 人 500</td> </tr> <tr> <td>スーパー負担金</td> <td></td> </tr> <tr> <th>支出内訳</th> <th>金額(円)</th> </tr> <tr> <td>報酬費</td> <td>1 回 5, 000</td> </tr> <tr> <td>交通費</td> <td>1 回ごとに実費</td> </tr> <tr> <td>資料作成費</td> <td>スーパー負担</td> </tr> <tr> <td>郵送費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>広報費</td> <td>スーパー負担</td> </tr> <tr> <td>事務経費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>雑費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5, 000~7, 000</td> </tr> </tbody> </table> コンセプト 食品を購入する場所として最もよく利用されているスーパーマーケットは (61.4%) ¹⁾ 、多くの人が日常的に集まる場所であることから、健康や栄養に関する啓発や支援を効率的に実施できる場となり得る。スーパー側は健康を意識し積極的活動を行っている企業であることをPRできるとともに、顧客参加型の企画は購買力を高めることが期待できる。また、参加者は楽しみながら情報収集・試食・試供品等を受け取ることができる等、双方にとって利益のあること(WIN-WIN交渉)がこの企画の重要点である。 ¹⁾ 農水省「平成 15 年度 食料品第 3 回定期調査」	収入内訳	金額(円)	参加費	1 回 1 人 500	スーパー負担金		支出内訳	金額(円)	報酬費	1 回 5, 000	交通費	1 回ごとに実費	資料作成費	スーパー負担	郵送費		広報費	スーパー負担	事務経費		雑費		合計
収入内訳	金額(円)																									
参加費	1 回 1 人 500																									
スーパー負担金																										
支出内訳	金額(円)																									
報酬費	1 回 5, 000																									
交通費	1 回ごとに実費																									
資料作成費	スーパー負担																									
郵送費																										
広報費	スーパー負担																									
事務経費																										
雑費																										
合計	5, 000~7, 000																									
	始めの 5 分 ツアー開始 (正味 40 分) ・参加者の人数確認 ・店長挨拶、趣旨説明、諸注意 等 ・栄養士と参加者が各食品コーナーをまわり、栄養士は対象者に食品、商品等を見てもらいながら、下記に示す糖尿病予防における食生活の重要ポイントを伝え、適宜質問に応じる。 ①バランスの取れた食生活(食品選択、食品の組み合わせ、一食や一回の適量など) ②栄養成分表示の読み方 ③血糖値が上昇しやすい食品とその予防方法 ④料理のアイデア(利用が少ない魚や野菜の活用方法、簡単にできる料理紹介など) ⑤塩分の多い食品と減塩対策 ⑥食品衛生に関すること など * スーパーと協議して、野菜料理や体験してもらいたい料理・食品などの試食の提供、推奨商品(栄養士側あるいはスーパー側からの紹介も可能であろう)	終わりの 5 分 ・ツアー内容の要点を2~3項目ずつまとめたパンフレット1枚を渡す。(シリーズとして作成し、1度に全部渡さず、何度か参加してもらえるようにする。) ・お土産(試供品)の配布 ・解散の挨拶																								
準備日程	<ul style="list-style-type: none"> ・ツアー内容の検討(提供情報の選択・説明内容、ツアーのシリーズ化、推奨商品、試食内容、移動順路 等) ・スーパー側との打ち合わせ(進行手順、提供情報とその内容、推奨商品、試食内容、お土産 等) ・広報の方法と内容の検討 ・配布資料(パンフレット等)の検討・作成 																									
成功のポイント	①スーパーマーケット経営者の理解 ②経営者側の利益を考慮した戦略(企業イメージアップ、購買力向上寄与、経営者が売りたい商品の紹介等) ③効率的な広報・周知方法の検討 ④参加者を引きつける参加特典 ⑤受益者負担の原理 等 * 欧米ではすでに行われている企画であるが、昨年、健康や環境をイメージアップに取り上げている企業が増加しているわが国においても、受け入れてくれるマーケットはあると思われる。スーパー側いかに生活習慣病予防・健康増進に関する社会的使命感を持たせ、企業側、顧客側双方にメリットがあるかを伝えることが出来るかがこの企画の要ではないだろうか。																									
報酬の決め方	①栄養士の報酬が1回5000円程度になるような報酬設定(例: 1 回に5名~7名の参加から各500円ずつ徴収したとして残りは経営者が1500円~2500円を負担)																									
評価方法	①実施回数 ②参加者数の推移 ③参加リピーター数 ④参加者の満足度/不満/要望 ⑤食品の売り上げ数(紹介した商品/推奨商品等) ⑥参加者の行動変容程度 等																									

糖尿病事業実施企画 企画事業実施例(2)

愛知県 山本和恵

実施事業名	性格別糖尿病予防教室			
事業実施の目的	糖尿病予防のため、肥満者に対して短時間でかつ確実に意識変容を得ることを目的とする。企画指導案として、集団指導では一律の指導方法となり教室(指導)から漏れてしまう参加者ができる。と、個人指導では時間と経費がかかってしまう。つまり、少人数制のグループ指導が最も最適と考えられる。そして、指導する中で参加者がどんな人間なのかをあらかじめわかっていると指導方針が決まりやすい。そこで、グループを性格6グループに分け少人数制にし、無駄な経費、時間を削減し、心に響きやすい指導方法を目指して効果を上げる。			
アプローチ先	・地域のJA ・中小企業 ・保健センター			
事業概要	・対象者(□ 個人 ■ 集団 □ その他[]) ・年 4 回の実施 ・1回の実施時間(約 1~1.5 時間) ・1回の参加人数 (約 50 人) ・スタッフ(管理栄養士 2~5 人 栄養士 人 医師 人 健康運動指導士 1 人)			
事業内容	タイムスケジュール		経費	
	時間	内容	収入内訳	
	1日目(90分) 全体教室	体重・体脂肪(量)・ウエスト周囲を測定 <講座>パワーポイント使用 ①メタリックシンドロームについて ②バランスのよい食事とは ③1日の食事の目安量の紹介 <実物を利用して> ①アルコール・甘い物のカロリーの紹介 <アンケート> 今後のグループ分けのために	主催者側からの報酬 150,000 支出内訳 金額(円) 人件費 交通費 材料費など 150,000	
	2日目(60分) グループ別教室	<調理実習> ①食材とその食材の出来上がりの料理の比較 <体験講座> ①塩分と油分量の確認 市販の惣菜・レトルト食品・コンビニ弁当を使用 ②食事記録表を渡す(次回回収)	合計 150,000 準備日程 約30日間 アンケート作成、 栄養アセスメント作成、 各教室の資料作成、 調理実習の献立作成、 調理実習材料購入、など	
	3日目(60分)	<講話> ①食事記録表を基に減量の方法 ②運動の必要性 ③サプリメントと水分補給 *スポーツドリンクを使用		
	4日目(90分) グループ別教室	<講話> ①バランスの良い食事を作ろう *主菜を肉・魚編で作成 (1食 650kcal) *食事バランスガイドと実物大写真使用 <評価> ①反省会と評価の発表		
	成功のポイント			
	報酬の決め方	各教室にはその時間に束縛される人件費のほか、資料作成費、材料費、材料購入時間などを含む。		
	評価方法	* 評価には、教室最後の時にも体重・体脂肪率(量)・ウエスト周囲を測定し教室はじめとの比較を組み入れる。合わせて行動変容も評価内容として位置付けるため、アンケートも試案している。		

糖尿病事業実施企画 企画事業実施例 (3)

愛媛県地域活動栄養士協議会

実施事業名	ランチマップの作成			
事業実施の目的	糖尿病予防に役立つランチメニュー(和食中心・約500kcal)が提供できる事に注目して、それに該当する飲食店をマップで広く知らせ、意識を持って利用してもらう。			
アプローチ先	○ランチ(約 500kcal・和食中心)を提供している飲食店 場所は、松山市の中心地(官庁や会社が多く集まる場所)に限定 ○健康管理室・共済組合・健康相談室など(マップを置いてもらう場所)			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者 (■ 個人 □ 集団 ■ その他(受講生)) ・内容 : 市の中心地(官庁や会社の多く集まる所)の周辺で、和食中心のランチメニューとして約500kcal以下のメニューのある飲食店を探し、マップで知らせる。 ・予定参加人数 () 人くらい) 作成部数 500 部 ・実施予定回数と1回の実施時間 () 回 () 時間) ・スタッフ(管理栄養士 6 人 栄養士) 人 医師) 人 保健師) 人 			
事業内容	タイムスケジュール		経費	
	時間	内容	収入内訳	
	5~6時間 ×4日	2人の組で、お店を実際にまわり該当するランチを提供しているか調べる。	店の広告料	金額(円) 85,000
	2時間 ×2日	マップ作成	支出内訳	金額(円)
	1時間	印刷	報酬費	52,000
			交通費	8,000
			会場費	0
			資料作成費	20,000
			郵送費	
			広報費	
			事務経費	
			雑費	5,000
			合計	85,000
準備日程	未定 今年度は、時間的に無理である為、これから役員会等で話し合いすすめていきたい。			
成功のポイント	お店の協力を得る。わかりやすく、興味をひくマップ作りと広く多くの人に知らせる(届く)方法を考える。			
報酬の決め方	マップに載るお店の広告料。			
評価方法	マップにクーポンを付けて利用者の数を知る。 マップを利用したり・置いてもらった場所(健康管理室・共済組合・健康相談室など)で、利用状況や利用者の感想などを聞いてもらう。			
その他意見	当初、情報誌やフリーペーパーなどと共同企画することを考え、事業所へ話を持っていったところ、それらの読者の対象年齢や扱い方など、難しい点が多くあり、話を進めることができなかった。 そこで、取り組み方を変え、マップに載せる店からの広告料を収入とし、印刷はカラーコピー等で行う等とした。 多くの人に手にしてもらうために、マップを置く場所や、マップの配布の方法をもう少し検討していかなければならないと考えている。また、松山市の助成金を得られるよう、企画を提出することも検討している。			

高齢者低栄養予防事業実施企画 企画事業実施例(1)

群馬県地域活動栄養士協議会

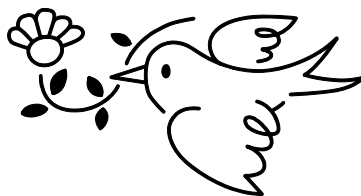
実施事業名	ゴジラちゃんと楽しく食べよう！！		
事業実施の目的	子ども用食育媒体を活用し、楽しく、わかりやすく、3度の食事の大切さを伝える		
アプローチ先	社会福祉協議会(デイサービスの施設・グループホームなど)		
事業概要	・対象者 (<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他 ・予定参加人数 (15~20人 人くらい) ・実施予定回数と1回の実施時間 (1~2回 2時間くらい) ・スタッフ(管理栄養士 5人 栄養士 2人 医師 人 保健師 人)		
事業内容	タイムスケジュール		経費
	時間	内容	収入内訳 金額(円)
40分 (実演は20分 ~30分)	媒体(ゴジラちゃん)を使った寸劇を行う 3匹のゴジラ 野菜が嫌いな「赤ゴジラちゃん」食事よりおやつばかりの「黄ゴジラちゃん」何でも良く食べる「緑ゴジラちゃん」と栄養士が登場し、受講者に質問を投げかけながら、食事の大切さを伝える。	依頼者からの報賞	30,000(10,000×3)
		支出内訳 金額(円)	
		報賞費	24,000(8,000×3)
		交通費	実費
		配布資料印刷費	400~500
		媒体修理・新規作成予備費	残金をあてる
		合計	30,000
		最低必要スタッフ数(3名) 2名での実施も検討中	
準備日程	2ヶ月前 2週間前	既存媒体のバージョンアップ 実演演習	
成功のポイント	老人会長、施設長に交渉し、理解を求める。成人向けのシナリオの作成 子ども向けの食育媒体として作成した媒体「ゴジラちゃん」のバージョンを変えることで高齢者向けに利用したい。バージョンとして、歯科衛生士と連携し、食べたい物がきちんと食べられるように「食べられるお口づくり」のアドバイスを取り入れた内容も実施してみたいと考えている。		
報酬の決め方	日本栄養士会の栄養指導標準報酬表に準ずる		
評価方法	感想を聞く。施設職員を通じて反応を見る。		



高齢者低栄養予防事業実施企画 企画事業実施例（2）

広島県地域活動栄養士協議会

実施事業名	お達者料理教室		
事業実施の目的	食生活が単調になりがちな高齢者が一同に会し、楽しく料理し、食事することなどを通して、低栄養状態の予防・改善を図る		
アプローチ先	地域の社会福祉協議会 地域の保健センター 地域の公民館		
事業概要	・対象者（ <input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他） ・事業内容（市販食品を利用した簡単クッキング、わいわいにぎやかに味わう） ・予定参加人数（ 15 人くらい） ・実施予定回数と1回の実施時間（ 1 回 3 時間） ・スタッフ(管理栄養士 1人 栄養士 1人 医師 人 保健師 人)		
事業内容	タイムスケジュール		経費
	時間	内容	収入内訳 金額(円)
	9:30～10:00	準備・受付 体重・血圧測定の実施	参加費(材料費) 1人当たり300 または@500
	10:00～10:30	事業(日程)説明 調理実習説明	
	10:30～11:30	調理実習	支出内訳 金額(円)
	11:30～12:30	試食 ・グループワーク ・楽しく・おいしく健康体操 ・「栄養3・3運動」食事チェック	報酬費 15,000 交通費 5,000 会場費
	12:30～12:40	後片付け	資料作成費 1,000 郵送費 1,000
	12:40～13:00	少し体を動かして…うたいながら 「ああ人生に涙あり」の歌にあわせて 簡単ストレッチ	広報費 事務経費 1,000 雑費 1,000
			合計 24,000
準備日程	2時間 4時間 2時間	日程・会場・事業内容等打ち合わせ 資料作成等 前日、食材等準備	
成功のポイント	地域の保健師との連携		
報酬の決め方	県栄養士会の基準		
評価方法	アンケート		
その他意見	介護保険の改正後、地域活動栄養士としてかかわることのできる事業として地域支援事業における「栄養改善」を目的とした一般高齢者施策(「地域栄養改善活動」)があると思う。 「地域栄養改善活動」を推進する住民育成プログラム等の研修を地栄協で実施してもらえれば、市町村に設置される「地域栄養改善活動」推進委員会のメンバーとして参加しやすくなると考えている。		



高齢者低栄養予防事業実施企画 企画事業実施例 (3)

熊本県 杉本 浩子

実施事業名	ディサービスでの栄養教室		
事業実施の目的	高齢者の低栄養を予防するため、バランスの良い食事のとり方や、食欲のないときの食事の工夫、むせない食事などを、いろんな楽しい媒体や紙芝居などを使っての講話や、ゲーム、簡単な調理等を取り混ぜて計画する。		
アプローチ先	月2回、ディサービスの施設で、栄養指導。 施設長や施設勤務の管理栄養士に交渉する。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者 (<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 集団 <input type="checkbox"/> その他[]) ・内容 ディサービス利用者にお絵かきや、書道、ゲームなどおなじプログラムに入れて、低栄養予防などの講話、元気になる食事の話・旬の食品の調理法や試食など、「楽しませながら食育ができないかなー」と考えている。体を動かして食べることが、元気の素であること、どのようにしたら食べられるか？便利な栄養補助食品があることも知らせたい。 ・予定参加人数は(10 人くらい) ・実施予定回数と1回の実施時間 (月 2 回くらい 0.5~1 時間くらい) ・スタッフは(管理栄養士 1 人; 栄養士 1 人; 医師 人; 保健師 人) 		
事業内容	タイムスケジュール		経費
	時間	内容	収入内訳 金額(円)
	10:00	パネルシアター 花子さんが若くて、元気なわけは？ 赤、黄色、緑色の食べ物知ってる？ 4つのお皿を揃えて食べましょう。	45,000
	10:30	デモンストレーション 手早く出来る、旬の食材を使った料理やおやつ。	支出内訳 金額(円)
		講師謝礼 2人分	20,000
		打ち合わせ、準備	10,000
		交通費	4,000
		食材料費	6,000
		媒体作成材料代	5,000
	11:00	試食 終了	合計 45,000
準備日程	打ち合わせ、パネルシアター追加作成、デモンストレーション内容をきめ、準備		
成功のポイント	楽しい媒体等を使って、遊び感覚で、楽しませながら食育しようと思っているので、媒体の開発や、指導方法の検討等、如何に楽しく食育が出来るかにかかっていると思う。施設でやらせてもらうので、施設長の理解と協力が必要だと思う。		
報酬の考え方	実際教室を実施している時間のみでなく、準備にかかる時間も含めて考えてもらう。施設側との交渉で決める。		
評価方法	ディサービス参加者の栄養状態が良くなる、(血液検査、身体計測、食事の聞き取り調査から、バランスが良くなる)。生活習慣の改善等、行動の変容が見られるか？など。		
その他意見	高齢者には栄養や食事について、学習したことがない人がいる。健康的な食べ方の学習は、低栄養予防や改善につながると思う。		



・新規事業企画アシストシート

事業名： _____

《対象》

《事業の目的》…事業の到達点

【新規事業必要性の背景】…実態の把握

【社会から求められていること】…「なにを」「どのように」するために存在

【事業実施のための私たちの使命・思い】…どのようなことに貢献するか

【この事業を行なう理由】…これをすると、こうなるというもの

【目的を達成するために到達すべき目標】…具体的で段階的な指標

【この事業のコンセプト】

さあ！ここまで決まったら、具体的に決めていきましょう！

【何のために】

【だれと】

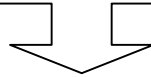
【いつ】

【どこで】

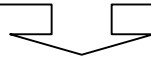
【何を】

【どういう手段で】

【予算】



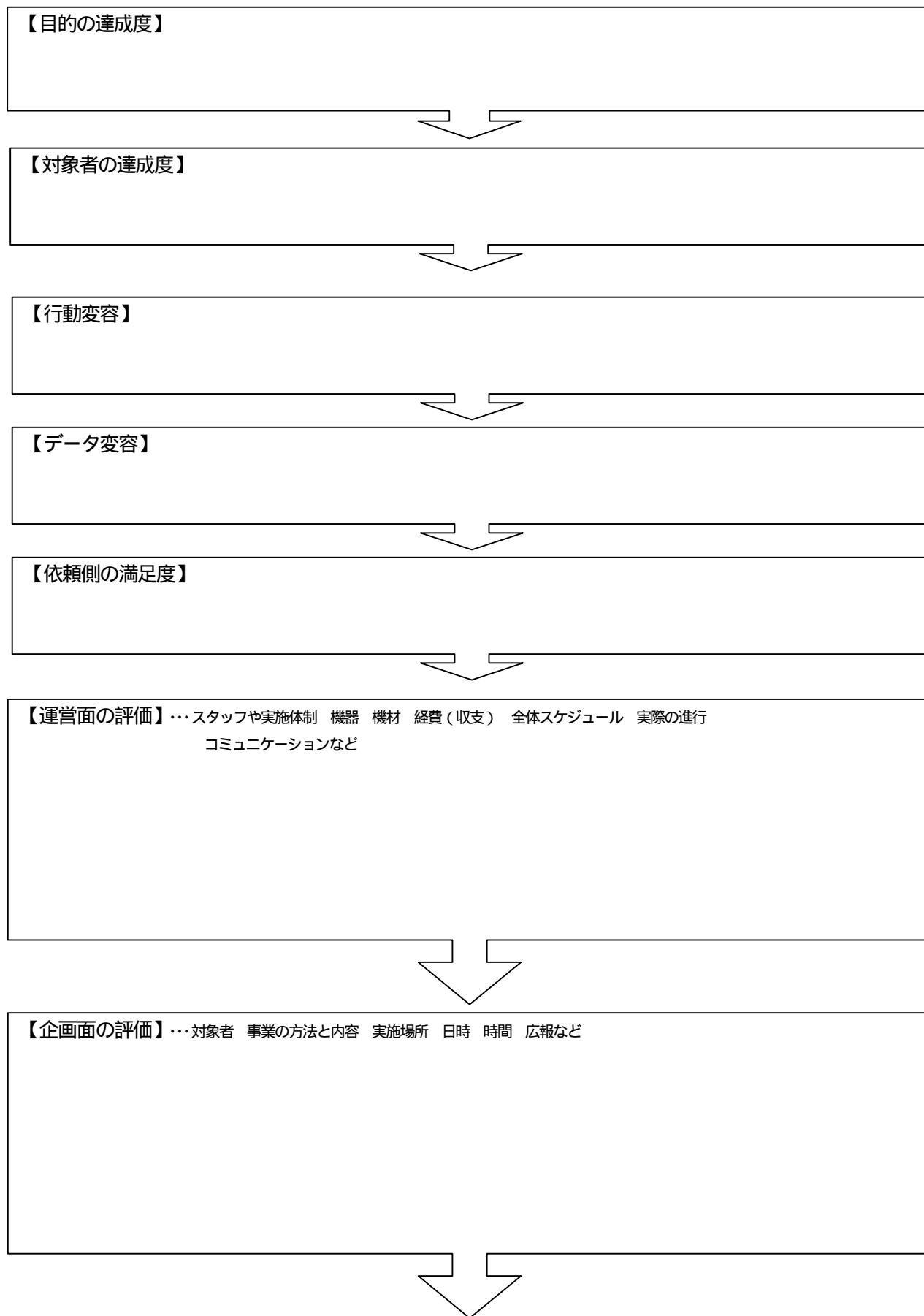
【周知方法】



【詳細】

決まったら、実施！

実施後は、事業を振り返って、評価をしていきましょう。

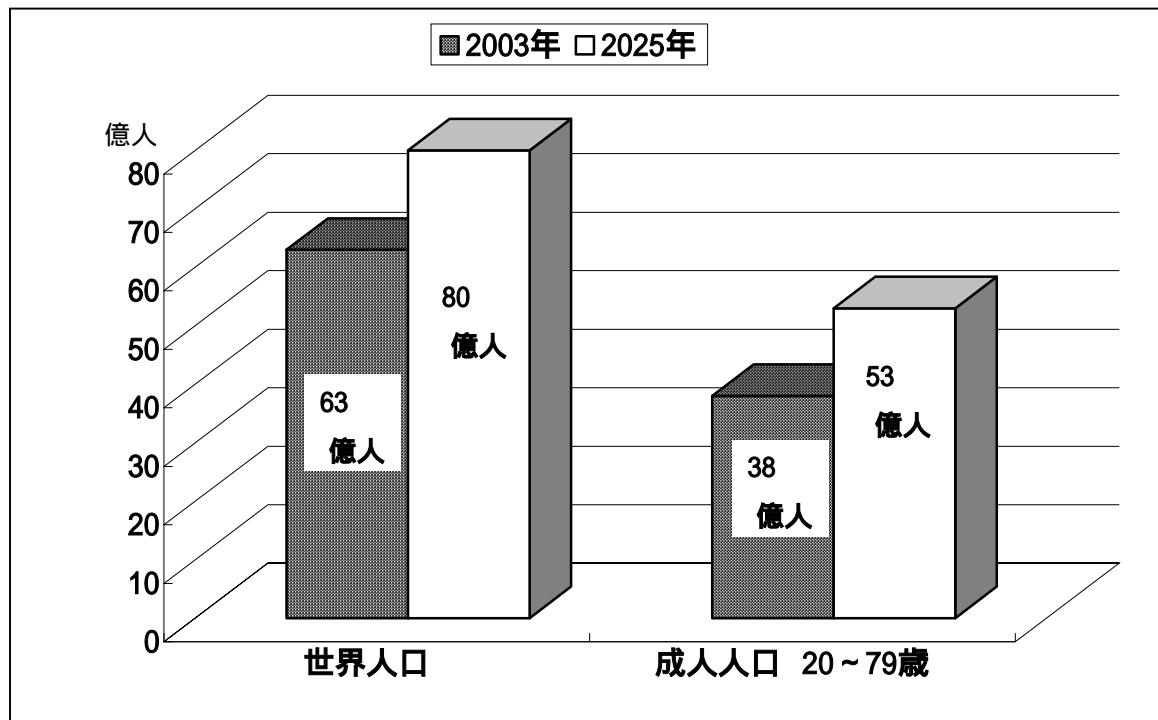


次の事業を企画し、事業を実施しましょう

資 料

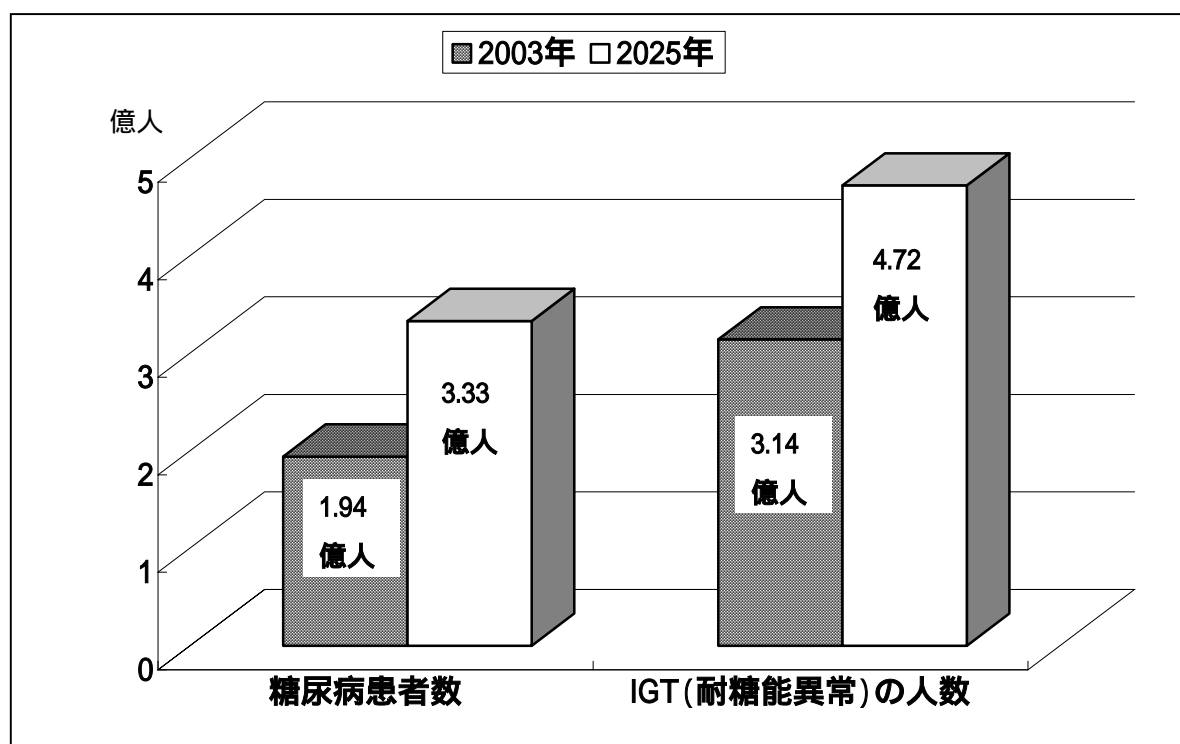
【資料 1】

世界人口の推移



国際糖尿病連合調査：2003 年

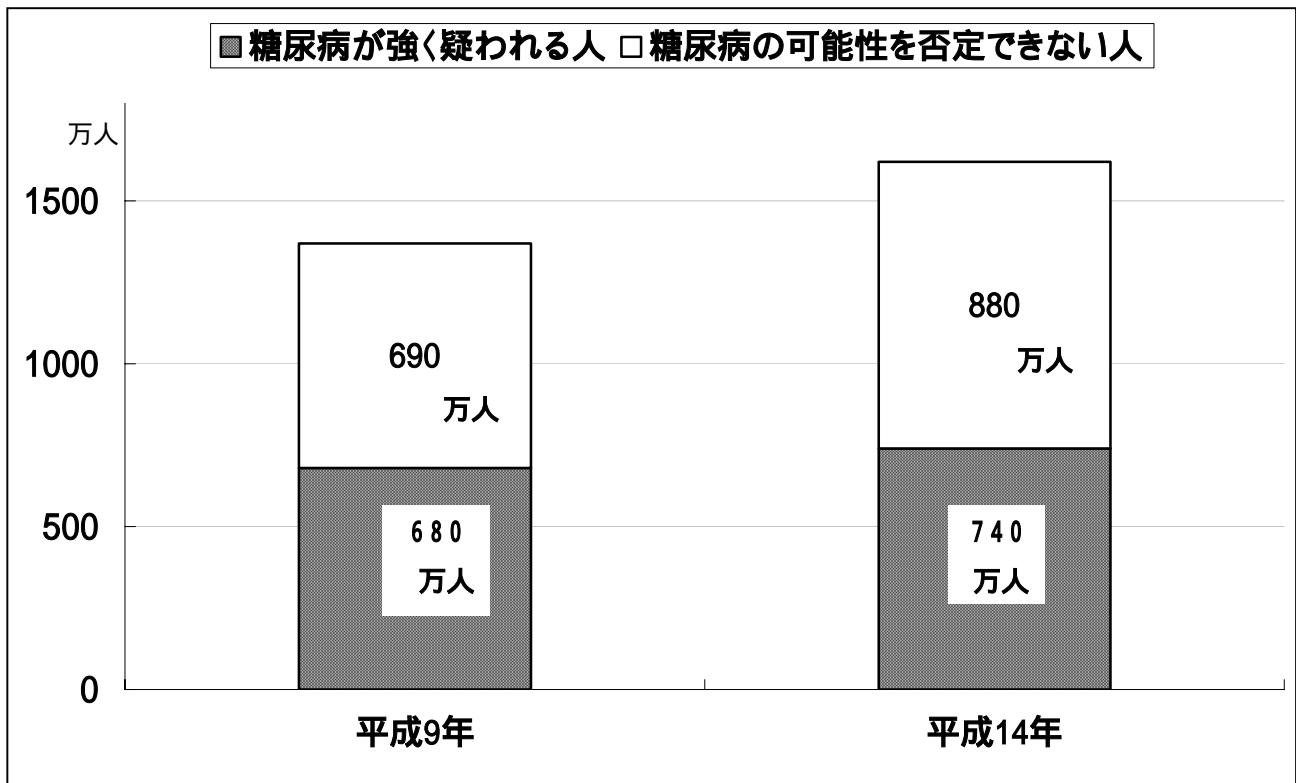
世界の糖尿病患者数と I G T の人数の推移 (20~79 歳)



国際糖尿病連合調査：2003 年

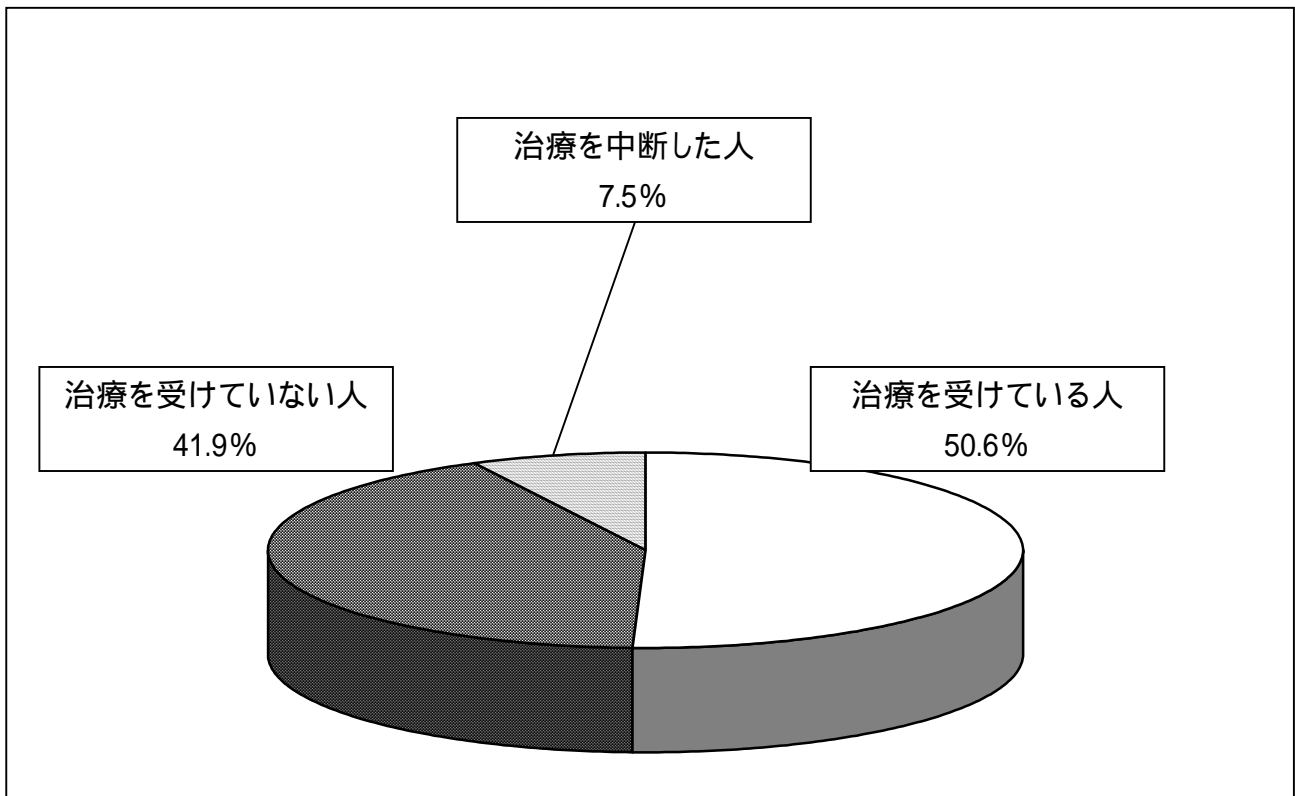
【資料 2】

糖尿病予備軍の推移



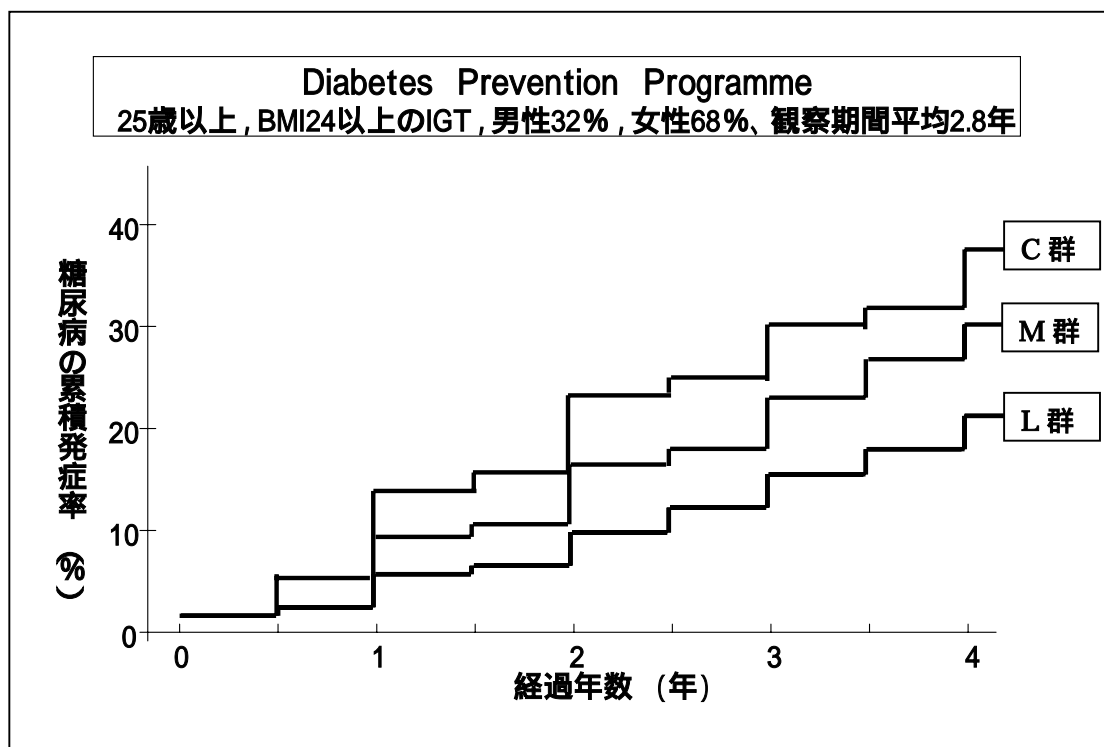
厚生労働省国民栄養調査「糖尿病実態調査」より

糖尿病が強く疑われる人の受診状況



平成 14 年厚生労働省国民栄養調査「糖尿病実態調査」より

【資料 3】 IGT に対する介入と糖尿病発症抑制効果



生活習慣改善群 (L 群) : 低脂肪食 + 運動 150 分/週 + 体重 7% 減 1079 名
薬物療法群 (M 群) : メトホルミン 1700mg/日 1073 名
プラセボ群 (C 群) : 一般的アドバイス + プラセボ 1082 名

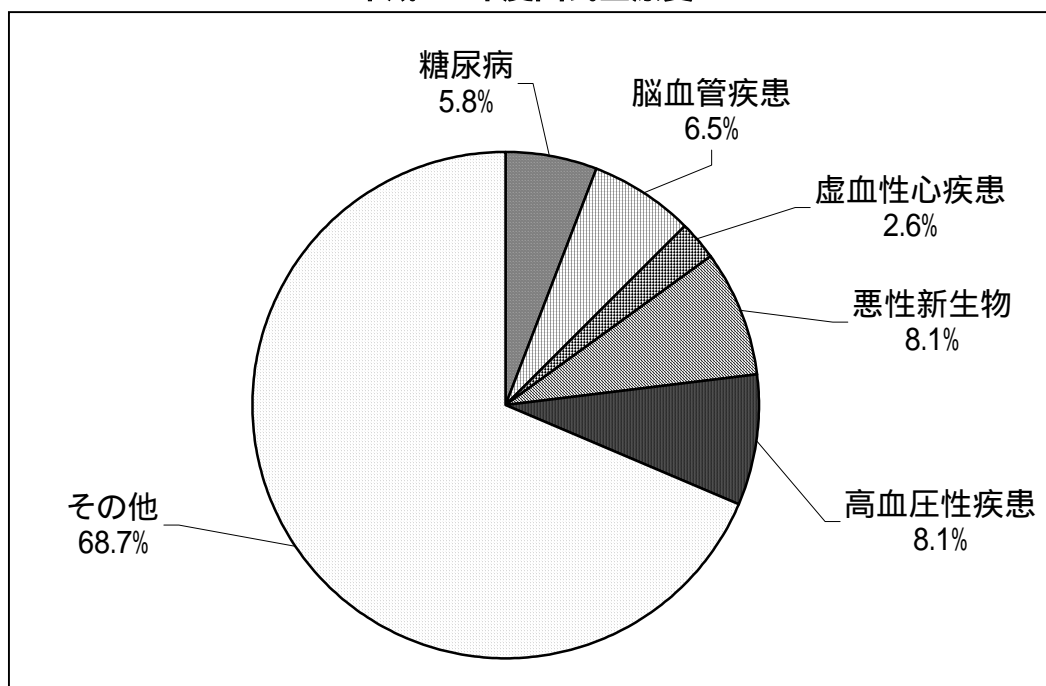
アメリカで行われたスタディで境界型を 3 群に分け 4 年間フォローした結果
薬物療法群やプラセボ群より生活習慣を改良した群のほうが糖尿病発症が少なかったとい
う大規模臨床研究結果である。(延数 3234 名)

- 1) (C 群) を自然経過としてみると (L 群) で約 6.0%、(M 群) で約 3.0% 糖尿病の発症が抑制された。
- 2) 3 年経過時点で (L 群) が 1.4%、(M 群) で 2.2%、(C 群) で 2.9% の糖尿病の発症が見られた。

国際糖尿病連合調査 : 2003 年

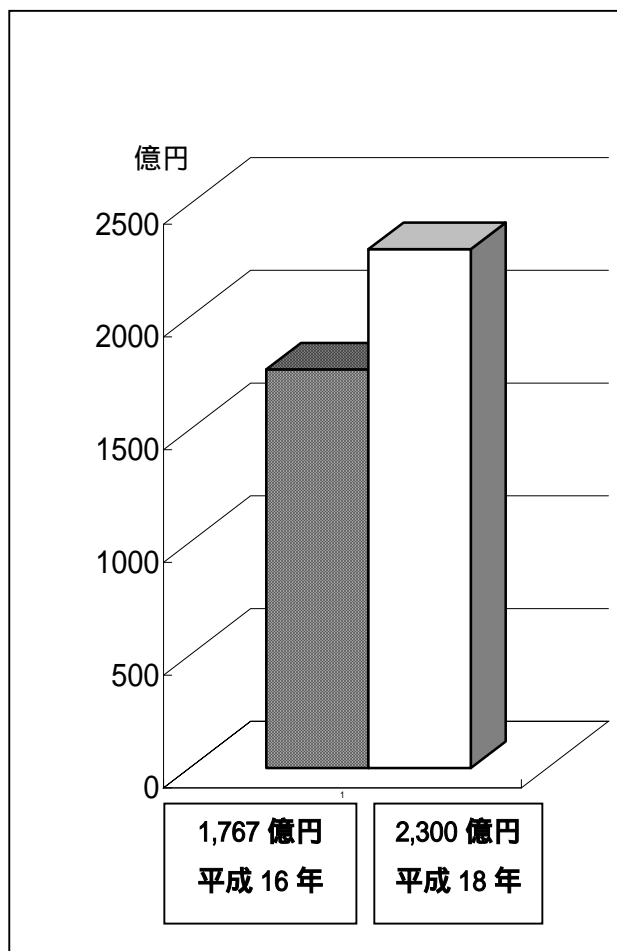
【資料 4】

平成 14 年度国民医療費

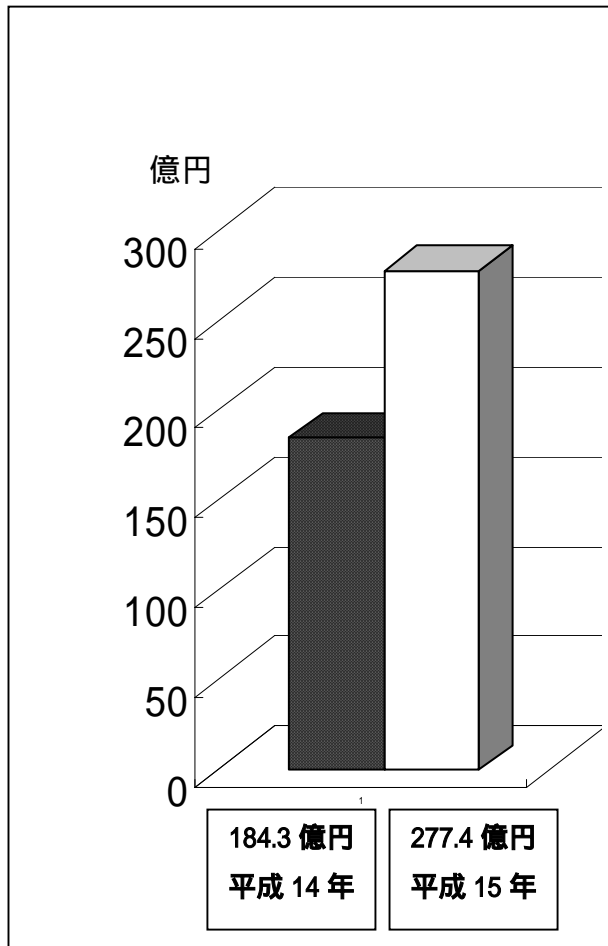


厚生労働省「国民医療費」：平成 14 年

糖尿病治療薬・特定保健用食品(糖尿病関係)の市場規模



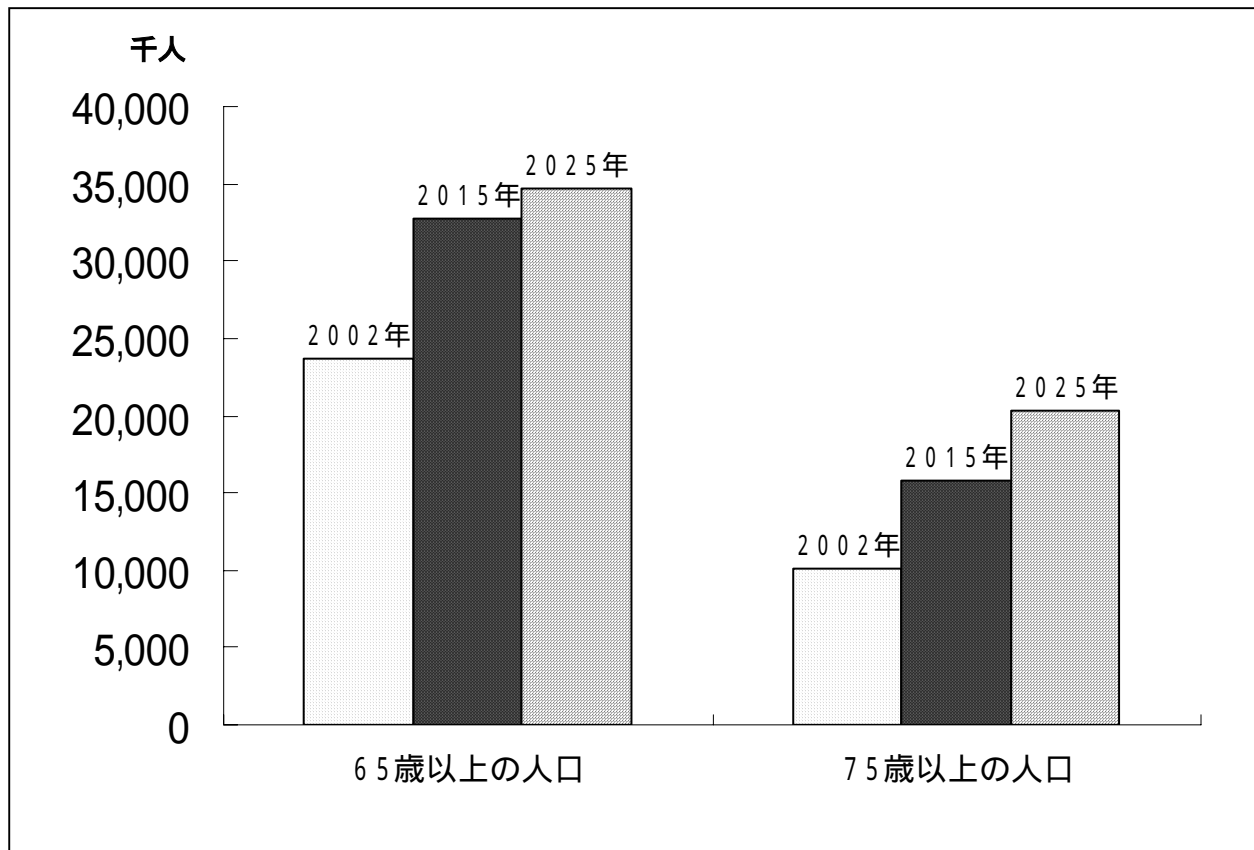
富士経済「2005 医療用医薬品データブック NO4」より



(財)日本健康・栄養食品協会：2003 年度

【資料 5】

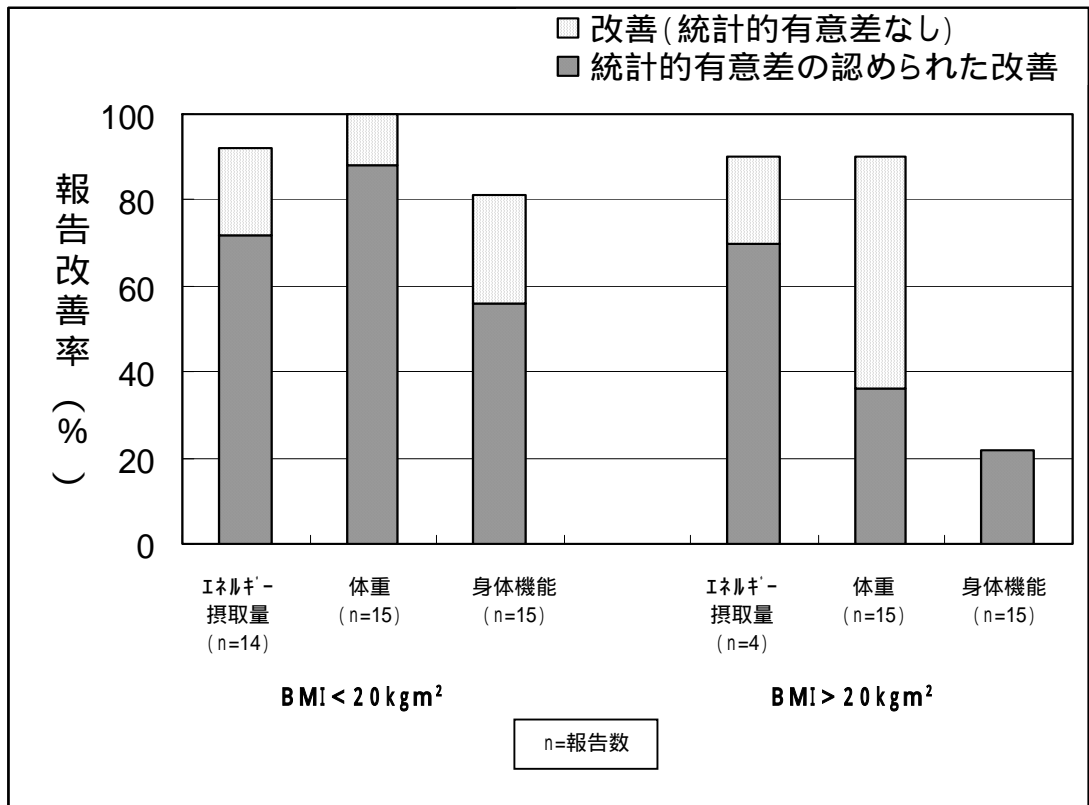
高齢者人口の年次比較



	65歳以上	75歳以上
2002年	23,628 千人	10,043 千人
2015年	32,772 千人	15,736 千人
2025年	34,726 千人	20,260 千人

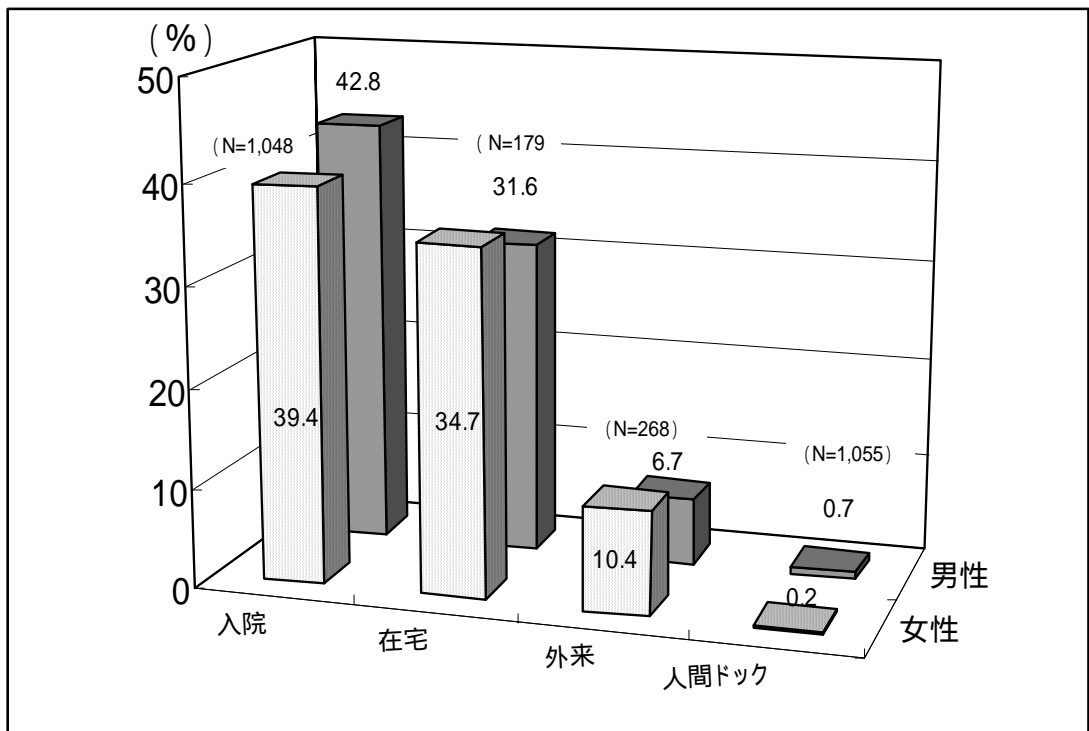
平成14年人口動態統計月報年計(概数)

【資料 6】 地域高齢者へのエネルギー・タンパク質補給(食事に経口栄養補助食品を付加)を用いたランダム化比較試験によるエネルギー摂取量、体重、身体機能の改善報告



わが国の高齢者医療施設入院患者等の低栄養状態の中リスク者の出現頻度

(血清アルブミン値 3.5g/dl 以下)



厚生省老人保健事業推進等補助金「高齢者の栄養管理サービスに関する研究報告書」(松田朗、1996 - 1999)

【資料 7】 問 診 表 (例) 生活習慣病予防用

記載日 平成 年 月 日

氏名 _____ 男・女 生年月日 T・S・H 年 月 日 職業 (_____)
 病名 (_____) 身長 (_____ cm) 体重 (_____ kg)
 最大体重 (_____ kg 歳時) 20 歳時体重 (_____ kg) 標準体重 (_____ kg) 適正体重 (_____ kg)
 BMI (_____ kg/m²) 肥満度 (_____ %) 栄養相談歴 (有り・無し) 個別 (_____ 回) ・集団 (_____ 回)

1) 家族構成

間柄	氏 名	年 齢	職 業	健 康 状 態

- 2) 朝食は食べますか？ (食べない、決まっていない、食べる 時 自宅 外食)
 3) 昼食は食べますか？ (食べない、決まっていない、食べる 時 自宅 外食)
 (自宅・手弁当・外食食堂・コンビニ弁当・会社の食堂・外食業者の弁当・パンなどを買う)
 4) 夕食は食べますか？ (食べない、決まっていない、食べる 時 自宅 外食)
 5) 食事の量は？ お腹いっぱい食べる (朝食、昼食、夕食)
 腹 8 分目にしている (朝食、昼食、夕食)
 少ししか食べない (朝食、昼食、夕食)
 6) 間食はしますか？ (食べない、食べる) 何を食べますか？ (_____)
 7) 好きな食べ物は？ (_____)
 8) 嫌いな食べ物は？ (_____)
 9) 甘いものは好きですか？ (好き、普通、嫌い) 何が好き？ (_____)
 10) 塩辛いものは好きですか？ (好き、普通、嫌い) 何が好き？ (_____)
 11) 漬物は好きですか？ (好き、普通、嫌い) どの位食べますか？ (月・週・日 回位)
 12) 味噌汁は好きですか？ (好き、普通、嫌い) どの位食べますか？ (月・週・日 回位)
 13) 油っこいものは好きですか？ (好き、普通、嫌い) 何が好き？ (_____)
 14) 揚げ物は好きですか？ (好き、普通、嫌い) どの位食べますか？ (月・週・日 回位)
 15) コーヒー・紅茶・ココアは飲みますか？ (飲む・飲まない) (_____) 杯 / 日・週・月
 砂糖入り (ティースプーン 杯) ミルク入り 何も入れない
 16) アルコールは飲みますか？ (飲む・飲まない・以前飲んでしたが今は飲まない)
 何を (_____) どの位 (_____)
 17) ジュースを飲みますか？ (飲む・飲まない・以前飲んでしたが今は飲まない)
 何を (_____) どの位 (_____)
 18) 喫煙しますか？ (する・しない) 本数 (_____ 本 / 日) 喫煙歴 (_____ 年)
 19) 食事を作る人は (本人・本人以外 _____)
 20) 何か運動していますか？ (_____)
 21) 交通手段 (通勤・通学・外出時) (車・自転車・電車・バス・徒歩 分)

個人情報保護の上から上記情報は栄養相談時の資料以外に使用いたしません。

【資料 8】 問 診 表 (例) 高 齢 者 低 栄 養 予 防 用

記載日 平成 年 月 日

氏名	_____	男・女	_____	生年月日	M・T・S・H	年	月	日
病名	(_____)	身長	(_____ cm)	体重	(_____ kg)			
最大体重	(_____ kg)	歳時	_____	6ヶ月前体重	(_____ kg)	体重減少率	(_____ %)	
標準体重	(_____ kg)	適正体重	(_____ kg)	BMI	(_____ kg/m ²)			
栄養相談歴	(有り・無し)	個別	(_____ 回)	集団	(_____ 回)			
1) 家族構成(世帯員) 名 介護者(続柄)								
問柄	氏名	年齢	職業	健康状態				
2) 最近からだの調子はどうですか? (よい、ふつう、悪い)								
3) 歯(入れ歯も含む)の状態はよいですか? (はい、いいえ)								
4) 快い排便はありますか? (毎日、便秘がち)								
5) 食欲はありますか? (ある、ない)								
6) 朝、昼、夕 3 食 食べますか? (朝食、昼食、夕食)								
7) 食事の量は? お腹いっぱい食べる (朝食、昼食、夕食)								
腹 8 分目にしている (朝食、昼食、夕食)								
少ししか食べない (朝食、昼食、夕食)								
8) 毎食、ごはん・パン・麺類の主食を何か食べますか?(毎食、2回/日、1回/日) (1回の量 _____)								
9) 毎食、魚・肉・卵・大豆製品の主菜料理を何か食べるようにしていますか? (毎食、2回/日、1回/日) (魚、肉、たまご、大豆製品)								
10) 毎食、野菜の入った副菜を食べるようにしていますか? (毎食、2回/日、1回/日)								
11) 牛乳・乳製品をとるようにしていますか? (牛乳・乳製品・飲めない)								
12) 料理に油を使いますか? (使う・炒め物程度・使わない)								
13) 好きな食べ物は? (_____)								
嫌いな食べ物は? (_____)								
14) 間食はしますか? (食べる、食べない)何を食べますか? (_____)								
15) 漬物は好きですか? (好き、普通、嫌い)どの位食べますか? (月・週・日 回数)								
16) 味噌汁は好きですか? (好き、普通、嫌い)どの位食べますか? (月・週・日 回数)								
17) 飲み物は飲みますか? (何を _____ 1日にどのくらい)								
18) 食事は楽しみですか? (はい、いいえ)								
19) 食事の用意は誰がしますか? (本人、家族、ヘルパー、その他 _____)								
20) 買い物は誰が行きますか? (本人、家族、ヘルパー、その他 _____)								
21) 買い物に行けない時でも利用できる保存食はありますか? (ある、用意していない)								

個人情報保護の上から上記情報は栄養相談時の資料以外に使用いたしません。

【資料 9】 低栄養状態予防のためのアセスメント 自己チェック表（例）

	PEM リスクのチェック項目	チェック欄
身体状況	この6ヶ月に、以前に比べて体重が減少(5%以上が目安)してきていますか	
	この6ヶ月間に、以前に比べて身体の筋肉や脂肪が落ちてきていますか	
	歯や口腔、飲み込みの問題がありますか	
	下痢が続いたり、下剤を常用していますか	
	便秘が続いていますか	
薬剤利用 入院	最近、入院、手術などを経験しましたか	
	1日に5種類以上の薬を飲んでいますか	
食習慣	1日の食事は2食以下ですか	
	主食(ご飯など)を食べる量が少なくなってきましたか	
	主菜(肉・魚などのおかず)を食べる量が少なくなってきましたか	
	牛乳・乳製品をあまり食べないですか	
社会支援	毎日、1人で食事をしていますか	
	経済的な理由により十分な食事をする事ができないことがありますか	
生活活動の自立 身体活動	日常的に身体を動かさなくなってきましたか	
	食事姿勢や食べる動作に不自由を感じていますか	
	自分で(あるいは料理担当者が)、食べ物を買に行くのに不自由を感じますか	
	自分で(あるいは料理担当者が)、食事の支度をするのに不自由を感じますか	
ヘルス メンタル	食べる気力がなくなってきましたか	
	食べるのが楽しいと感じなくなってきましたか	

参考文献:「ヘルスアセスメントマニュアルー生活習慣病・要介護状態予防のために」
厚生科学研究所・2000年

【資料 10】

栄養指導標準報酬表

(個人で仕事を依頼された場合)

1. 原稿料		
400 字詰原稿用紙 1 枚につき		3,000 円以上
2. 講師料		
講演会 1 時間につき		30,000 円以上
献立、調理、講話 1 回につき		30,000 円以上
3. 献立作成技術料		30,000 円以上
治療食 1 週間分		30,000 円以上
一般食 1 週間分		20,000 円以上
集団食 1 週間分		20,000 円以上
4. 外食		
栄養価判定指導(1 食分)		3,000 円以上
メニュー開発指導(1 品)		10,000 円以上
出張指導(1 回 4 時間以内)		15,000 円以上
5. 集団給食指導料		
献立作成 1 か月分作成して週 1 回出張の場合		150,000 円以上
6. 栄養指導料		
集団指導 1 時間につき		10,000 円以上
個人指導 病態栄養指導 1 人		5,000 円以上
一般栄養指導 1 人		2,000 円以上
	(イベント等の場合はこの限りではない)	
訪問指導 1 件につき		10,000 円以上
	(介護保険、医療保険栄養調査等の場合はこの限りではない)	
7. 食事診断		
書面による食事診断 1 件につき		2,000 円以上
パソコン(インターネット)による食事診断 1 件		2,000 円以上

ただし、旅費、交通費等は別途

平成 13 年 1 月 20 日

社団法人 日本 栄養 士 会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-39
03-3295-5151

新規事業企画のためのマニュアル (平成 17 年度政策経費事業)

(社) 日本栄養士会全国地域活動栄養士協議会

編集委員 野口 泰子 (発行責任者・協議会長)

浅川 良江 (副協議会長)

石田 洋子 (副協議会長)

織田 朋子 (常任幹事)

角谷ヒロ子 (常任幹事)

清藤 規子 (幹事)

大河内裕子 (幹事)

長谷川利希子 (幹事)

種子田雅子 (幹事)

伊藤 孝子 (幹事)

大橋 陽子 (幹事)

服部 京子 (幹事)

野々村瑞穂 (顧問)

(印 政策担当委員)

発 行 社団法人日本栄養士会
全国地域活動栄養士協議会
〒101 - 0051 東京都千代田区神田神保町 1-39
日本健康・栄養会館内
TEL 03-3295-5151
FAX 03-3295-5165

発 行 日 平成 18 年 3 月 10 日
印 刷 有限会社 コーケン印刷 (3,000 部)
